

九大広報

Kyushu University Campus Magazine

2009.5 vol.63

インタビュー・シリーズ九大人

片山 恭一

作家

ふろんとランナー

熊谷 秋三

健康科学センター 教授

伊都キャンパス
センターゾーンがオープン

九州大学

九州大学は
2011年に
100周年を
迎えます



伊都キャンパスセンターゾーンがオープン	2
作家 インタビューシリーズ・九大人	3
片山恭一	3
トピックス 平成二十年度学位記授与式・ 平成二十一年度入学式を挙行	8
学位記授与式・入学式来賓メッセージ ■三菱重工業株式会社相談役 増田 信行 ■レウヴェン・カトリック大学副学長 マート・ブーケルス ■国立台湾大学総長 李嗣涔	9
六本松の歴史(三) ―新旧両制度の学生・生徒― 大学文書館教授 折田 悦郎	15
九州大学百周年記念事業③ 海外オフィスだより カリフォルニアオフィス シリーズ研究・ふろんとランナー 健康科学センター 教授 熊谷 秋三	17
21	19



躍動・学生たちの活躍 九州大学応援団	25
ニュース ■ISS滞在の若田宇宙飛行士とライブ交信 ■「九州大学まなびたい」が博多どんたくに初参加 ■理学研究院の和田特任教授と矢原教授が「みどりの学術賞」を受賞 ■筒井哲夫名誉教授と高樹のぶ子特任教授が紫綬褒章を受章 ■平成二十一年度 科学技術分野における文部科学大臣表彰若手科学者賞 ■開学記念講演会で建築家の安藤忠雄氏が講演 ■塩谷文部科学大臣が伊都キャンパスを視察	28 27 29 30 30 31 31
九大学生が案内する世界のキャンパス ■レウヴェン・カトリック大学	32
告知板 ■ハラスメント相談 ■九州大学応用力学研究所RIAMフォーラム2009 ■九州大学フィルハーモニーオーケストラ定期演奏会	33 34 34 34
新聞で報道された九州大学 ■平成二十一年二月〜三月 こんな本出しました ■井の中の蛙 大海を知る ■福岡歴史がめ煮 ようこそ九州大学へ 編集後記	35 37 37 38 38



編集発行 九州大学広報専門委員会

事務 九州大学総務部広報室

住所 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

電話 092-642-2106

FAX 092-642-2113

E-mail koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL http://www.kyushu-u.ac.jp

印刷 アイメディア株式会社

□お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。

□投稿をお受けします。文字数は、300字未満。手書きのものも受け付けますが、できればテキストファイルのフロッピーディスク又はEメールでお送りください。可能な限り掲載しますが、本誌の目的や性格に照らして不適当と思われる原稿は掲載しません。

■九州大学関係者が本誌記事を転載する場合は、「九大広報第〇号から」と明記してください。学外の方は、事前に事務までご連絡願います。

■「九大広報」は九州大学ホームページでもお読みいただくことができます。

■次号は、2009年7月発行予定です。





ITO CAMPUS CENTER-ZONE OPEN

伊都キャンパス センターゾーンがオープン

平成二十一年四月、伊都キャンパスのセンターゾーンがオープンしました。

今回オープンしたセンターゾーンには、学部一、二年次を対象とした全学教育の場となるセンター一号館・二号館、総合体育館や課外活動施設、大学院の研究教育棟、食堂などが入った生活支援施設（ビッグさんど）、学生寄宿舎（ドミトリII）などがあり、都市と共に栄え市民の誇りとなる大学を目指す九州大学の伊都キャンパスの顔となるメイン・エントランスとして来学者や学生を受け入れるゾーンになります。

四月六日（月）に開催されたオープニングセレモニーでは、有川総長が「本日、記念式典を迎えることができたことは、本学の学生・教職員にとって無上の喜びである。六本松キャンパスから伊都キャンパスへの移転は、分断状態にあった全学教育と専門教育を統合するうえでの重要な過程の一つであり、本学の悲願でもあった。今後も伊都キャンパスの整備と移転が円滑に進行するように、関係の皆様のご指導、ご協力を賜りつつ計画を進めていきたい。」との挨拶を行い、来賓の布村幸彦文部科



学省大臣官房文教施設企画部長、中島孝之福岡県副知事、吉田宏福岡市長、鎌田迪貞九州経済連合会会長、石川敬一九州大学学術研究都市推進機構理事長、有川総長、丸野理事によるテープカットが行われました。記念式典終了後には、施設案内、記念祝賀会が行われ、約四〇〇名が出席したセレモニーは、これからの伊都キャンパスへの期待を込めた祝賀ムード一色に包まれました。



作家 片山恭一

かたやま きょういち

三百萬部を超えるベストセラーになった「世界の中心で、愛をさけぶ」の著者である片山恭一さんは、本学農学部のご出身です。片山さんが、高校時代までを過ごした愛媛県宇和島市を後に、本学に入学されたのは一九七七年（昭和五十二年）のことです。片山さんは、在学時代に文学と出会い、今もなお福岡の地で創作活動を続けていらっしやいます。センターゾーンがオープンしたばかりの伊都キャンパスの中心で、六本松時代から三十余年の時を辿りつつ、学生時代、作家としての歩み、そして九州大学への思いを語っていただきました。

聞き手 福島 泰（ふくしま・やすし）九州大学広報室長

片山恭一氏のプロフィール

昭和三十四年 愛媛県宇和島市で出生

昭和五十六年 九州大学農学部（農政経済学科）卒業

昭和五十八年 九州大学大学院農学研究科修士課程修了

平成元年 九州大学大学院農学研究科博士後期課程を退学

在学中から小説等を書き始め、

昭和六十一年 「気配」で文藝界新人賞を受賞

平成十三年 「世界の中心で、愛をさけぶ」が三冊目の単行本として刊行

平成十六年 「世界の中心で、愛をさけぶ」が映画化され、三百萬部を超えるベストセラーになる。

近著は「宇宙を孕む風」三十五歳で始めた剣道は、四段の腕前



大学は、やりたいことを じつくりと見付けられる場であってほしい

在学中に哲学や文学と
出会って

― 本日は、初めて伊都キャンパスに足を踏み入れられたそうですね。伊都キャンパスの印象はいかがでしょう。

片山 近代マンションが建っているような感じですよ。建物の印象だ



九大在学時の片山さん

けで中味はまだよくわかりませんが、新入生にとっては、真新しい建物の中で、新鮮な気持ちでキャンパスライフのスタートが切れるのではないのでしょうか。あとはいかにして学生街が形成されていくかでしょうね。私も六本松キャンパスで教養課程の一年半を過ごしましたが、当時の六本松には、古本屋があったり下宿屋があったりで、まさに学生の街という感じでした。

― 当時は、今のようなアパート暮らしよりは、下宿や間借りが一般的だったそうですね。

片山 私の頃は、さすがに賄いつきの下宿というのはあまりなくて、間借りが多かったですね。部屋だけ借りて、食事は各自でというスタイルです。私は六本松キャンパスの近くに住んでいましたから、食券を一月分買いだめして、生協の食堂で朝昼晩とご飯を食べていました。

― 今は作家として活躍ですが、農学部を志された経緯を教えてください。

片山 高校のときは、数学の点数が

よくて、むしろ国語や英語が苦手な足を引っ張っていました。そんなこともあってか、理系に属していて、その中でも自然に関わるような分野に進みたいなという思いがあって、農学部を選んだというところでしょう。サラリーマンになろうという気はなくて、将来は久住や阿蘇で植物に関わっていったらいいなというくらいの思いでした。それが、入学してから教養部で人文系の科目を勉強していくうちに、だんだん文学や哲学といった人文系の学問に興味が出てきました。幸い農学部には農政経済学という人文系の分野があったものですから、専門課程に進むときに、ここに入って経済学を勉強することにしました。

― 国語が得意ではなかったというのは意外ですね。

片山 そもそも本をあまり読んでなかったんですよ。大学に入ってから初めて夏目漱石の本を読んだといった具合でした。いわゆる文学少年ではまったくなかったですね。

― 箱崎の時代も含めて、どんな学

生だったんでしょうか。

片山 友達付き合いはそう多い方ではなく、サークル活動もやっていませんでしたし、暗い学生時代だったかもしれません（笑）。当初は研究者になりたいという希望があったので、本を読んだり、勉強はよくやっていた方だと思います。アルバイトをする時間があったら本を読んでいた方がいいというくらいでしたから、周りの友達からすると嫌なやつだったかもしれませんね。卒論のテーマはマルクスだったんですが、箱崎の図書館にあるマルクス関係の本は片っ端から読んでやろうと思って、結果的には何百冊も読みました。マルクスの本流って哲学なんです。人間の本质だとかそういうことを真剣に考えているんです。そういうところに興味を覚えたんですね。そういうするうちに、農政経済学の本流からどんどん外れていってしまっていて、そうしていったんアカデミズムの外に出てしまうと、論文が書けなくなってしまうんですね。そうすると研究者の世界でポストを得ることが難しくなります。といっても哲学的なことをやって生活ができるわけでもありません。そうして悩んだ末に研究者への道は断念することになったんです。

― とすると、作家になろうと決意されたのは、大学院時代ということでしょうか。

片山 どこかの時点で決めたというよりも、やりたいことをやっているうちにそうなってしまったという感じです。大学院に入った頃から、何かものを書きたいという気持ちが強くなっていて、自分に向いているかもしれないと思うようになっていました。書いてみると、自分の書いたものがどういうレベルにあるのかわりたくなるんですね。それで、文芸誌がやっている新人賞に応募したりもしました。そうしてだんだんと、この道に入り込んでいったという感じです。お陰様で、二十七歳の時に新人賞をいただきましたが、なかなか次が続かなくて、大変な時期が十年ほど続きました。それからやっと単行本が出たという感じです。

いいものを書きたいという 気持ちで書き続けて

― ご両親も心配されたでしょうね。片山 そうしている間には結婚して子供もできました。私の両親も家内の両親も、いろいろと心配だったと思うんですが、それを面と向かって言うことはなかったですね。恵まれていたと思います。家内もよくサポ

ートしてくれたと思います。子供たちにしたら、他のお父さんたちは会社に行っているのに、うちのお父さんは家で何してるんだろうと思ってたようですが、家内がうまくフォローしてくれて、何となく納得していたような様子でした(笑)。子供たちは、友達には「お父さんは、サザエさんに出てくる伊佐坂さんのような仕事をしてるんだよ」と言ってたようです。やはり作家というのは大変で、それだけで食べていくのは並大抵のことではありません。

― 物語のストーリーは頭の中でどうやって組み立てていかれるのでしょうか。

片山 私の場合は、やはり日常生活の影響は大きいと思います。毎日の生活の中で、これまで経験したことのないことに会いますよね。そういうことの中から題材が生まれてきたと思います。やはり自分が体験したことがないことはなかなか書けないですよ。そうすると、私のように大学しか知らず、サラリーマン経験もないような者にとっては、題材が限られてきます。そうすると、自分の若い頃の体験なんかが題材になってきますよね。いわゆる青春小説というものです。最初の頃の小説は、そういったものが多かったです。



自宅の書斎での片山さん

けれども、そういった体験はストーリーの枝葉にはなっても、ストーリーの本流はやはり創っているんですね。最も売れた「世界の中心で、愛をさけぶ」の場合もそうでした。

― その「世界の中心で、愛をさけぶ」が三百万部を超えるベストセラーとなり、映画にもなりました。それから生活が一変したのではないですか。

片山 ほっといたらそうなったかもしれないですね。それまでは、こっちら載せてくれと言っても無視されていたのが、手の平を返したように次

から次に「書いてください」と依頼が来るんですね。それをともに受けてたら身がもたないと思いました。いいものを書きたいという気持ちが強かったですし、次から次に書けるようなタイプではないと思っていましたので、生活のペースは守るようにしました。

― どこが多くの読者の感動を呼んだと思われますか。

片山 あの小説も、それまで自分がこつこつと追い求めてきたものを表現したつもりだったのですが、それがたまたま、その時代の風に乗って舞い上がったんじゃないかという気がします。今あの本が出たとしても、売れるかはわかりません。読者の嗜好も変わっていますから。作品自体にもいいものがあつたんだとは思いますが、周りのいろんなこととうまくかみ合って、自分の持てる力以上のものが出たのかもしれないですね。

作家としてのこれから

― その一方で、うまく書けないでストレスが溜まるといったこともあるのではないですか。

片山 そういったことはあまりないんですよ。ものを書いていこうと思った時に、自分自身の中で一つ決めたことがあって、それは、サラリー



伊都キャンパスセンターゾーンの銘板の前で

マンのように書いていこうということとです。書きたい時に書く、書ける時に書くというのではなく、一日に決まった時間は必ず机に向かうということです。小説を書くというのは、アイデア勝負というよりは、むしろ力仕事のようなところがあって、日々の積み重ねがないと長いものは書けないんですね。書けない時でも粘って一日二、三枚は書いていく、そういったことの繰り返しですね。

— 学生時代の体験で、これまでの自分に影響を与えていると思うことはありますか。

片山 卒論でマルクスに取り組んで、そこで心に引かかったことを、今でも延々と考えているというところがあります。「人間の本质って何だろう」とか「人の死ってどう考えるべきだろう」とかいったことを今でも引きずっていて、そういったことが小説のテーマになったりすることがあるんです。学生時代の思考が今だに続いているところがあります。やっていること自体が当時とあまり変わっていませんしね(笑)。

— 作家として、良かったなと思われることって何でしょうか。

片山 自分のやりたいことがやれていることでしょうか。そういう点では本当に恵まれていると思います。この仕事には定年はありませんし、書く気になってもなれば何歳になっても書くことができます。それから、評価があらさまに数字になって表れないことです。小説に対しては、いろんな人がいろんな評価をするわけで、他人がど

う思おうと、自分ではよくできたと思えれば満足できますよね。今、会社にあつては第三者評価というものが幅をきかせているようですが、それだけで人の価値が格付けされるのであれば、それは辛い世界なんだろうと思います。第三者の評価は受けつつも、人は誰しも自分なりの評価の基準も持っておかないと、何のために生きているのかわからなくなってしまうのではないですか。私にしてみれば、小説を書いても全然売れない時期に、自分自身で懷疑的になったこともありましたが、子どもたちが「お父さん」と言ってくっ付いてきてくれたことで、自分という人間についての別の価値観が持てたわけです。そういったことが自分の周りのコミュニティの中でいくつあれば、自分というものに対する見方がいろいろできるわけです。グローバル化や合理化が進んで、何でも数値化されて評価されるようになった世の中で生きていくためには、必要なことではないでしょうか。

— それでは、これからどんな作品を書いていこうと思っていらいっしやいますか。

片山 一つ言えば、自分の実年齢に近い主人公で書いていきたいと思っています。私の世代であれば、親を

亡くしたり、介護の問題があつたりで、「老い」とか「死」が切実な問題となってくるわけです。そういったことを突き詰めて考えてみたいと思っています。例えば、「老い」がネガティブなものであるなら、世界に冠たる高齢化社会を成し遂げた日本という国は、いったい何なんだろうかと思いませんか。一生懸命にネガティブなものを創り出しているだけなら、愚かなことをやっていることになるでしょう。長生きすることについての意味が見いだせない、辻褄が合わないと思うんです。若い人たちにしても、高齢化社会についてポジティブに考えられるものが見えないと、やってられないと思うんですね。「生・老・病・死」っていうのは、昔から人生の四つの相として言われていますが、人間にとってこの四つのバランスがとれてはじめて豊かな一生だと思いませんか。今はこの四つうち、「生」意外の三つが抜け落ちていますよね。こういったことをじっくり考えてみたいと思っています。

— 最後に、卒業生として、これからの九州大学に対する思いを聞かせてください。

片山 私が学生の頃もそうでしたが、これまで教養部と専門課程が分かれ



「自分なりの評価の基準を持つことも必要」



ていましたよね。やはり大学というのは、いろんな人種がいて、そういう人達と同じ空間にいて、そういふこともいろいろ生まれてくる、そういったところではないかと思えます。そういう意味では、現在移転が進んでいて、そういう環境ができてくることは良いことではないで

しょうか。また、できれば私のように、途中で軌道修正したいと思った時にそれが実現できる環境があれば、なおよいと思います。大学というのは、自分が本当にやりたいことをじっくりと見付ける場所でもあると思うんです。それなのに、今の大学を取り巻く環境って逆行してますよ

ね。学生さんたちが、二年生や三年生から就職活動を始めようになっただんでは、就職予備校みたいで、何のために大学に行っているのかわからなくなってしまうのではないでしようか。今は、人生設計を七十年や八十年という長いスパンで考える時代になっています。若い皆さんのた

めにも、大学が、一生かけてやりたいことをじっくりと見付けられる場であってほしいと願っています。

このインタビューは、二〇〇九年四月二十八日、伊都キャンパスのセンター一号館応接室で行われました。



TOPICS

トピックス



平成二十一年度学位記授与式・ 平成二十一年度入学式を挙行

平成二十一年三月二十四日（火）、福岡国際センターにおいて平成二十一年度学位記授与式が行われ、学部卒業生二、六五〇名、大学院修了生二、三三三名の門出を祝いました。

学士学位記授与式では有川総長から十一学部の総代と二十一世紀プログラム課程の総代にそれぞれ学位記が授与されました。

有川総長は、卒業生に対して『「自分はこう思う」、あるいは「自分だったらこうする」といった

昭和三十二年工学部卒）から祝辞をいただいた後、学部卒業生を代表して法学部の遙山寛子さんが「九州大学の卒業生であることに誇りをもち、自己の強い意志で未来という道を切り拓いていきます」と答辞を述べました。

十二時二十分からは同会場で大学の学位記授与式が行われ、修士学位記、専門職学位記、博士学位記が各総代に授与され、来賓として出席いただいたレウヴェン・カトリック

明確な意見、一家言をもってほしい。自分を相手の立場に置いて考えてみる習慣を身に付けてほしい。重要な発明や発見に対して「自分だったらどうやったらできるだろうか」と自問してほしい。常に九州大学で学んだことを誇りに思い、それぞれの持ち場・場面で研鑽を積み、九大力を発揮してほしい』とはなむけの言葉を贈りました。

来賓として出席いただいた増田信行氏（三菱重工業株式会社相談役。

大学（ベルギー）のマート・ブーケルス副学長から祝辞をいただきました。

また、平成二十一年四月七日（火）には福岡国際センターで平成二十一年度入学式が開催され、十一の学部と二十一世紀プログラムの二、六八六名が新たに九大生となりました。

有川総長は、「現状に安住することなく、常に高い志を持って、社会の各界におけるリーダーになることを目指し、素晴らしい能力を九州大

学で開花させてほしい」「九大力、すなわち九州大学の歴史や伝統、実績、実力といった「九州大学の力」と「九つの大きな力」（例えば体力、

気力、学力、分析力、統合力、創造力、交渉力、国際力、指導力）の涵養に努め、これを発揮してほしい」との告辞を述べ、新入生総代の古賀啓祐さん（薬学部）が、「私達は本学教育の趣旨を体して、自立の精神を重んじ、学術を極めると共に自ら

人格の陶冶につとめ、社会の期待に沿うことを誓います」と誓詞を朗読しました。

また、当日は来賓の国立台湾大学の李嗣潑（Si-Chen Lee）総長からも祝辞をいただき、入学式を終え、先輩達の祝福を受けた新入生たちは、九州大学ロゴマーク入りのバッグを手に入れた第一歩を踏み出しました。

なお、次ページより学位記授与式、入学式に来賓として列席いただきました三菱重工業株式会社の増田信行相談役、レウヴェン・カトリック大学のマート・ブーケルス副学長、そして国立台湾大学の李嗣潑（Si-Chen Lee）総長からの祝辞を掲載します。



平成二十年度学位記授与式祝辞（要旨）

三菱重工業株式会社相談役 増田 信行

ますだ のぶゆき

（昭和三十二年 工学部卒）



我が九州大学の同窓生の一人として、今日の良き日を迎えられました皆さん方の前途に、期待を込めて心からお祝いを申し上げます。また、皆さん方の、福岡での充実した学生生活を支えてこられたご家族をはじめ、先生他の皆様方にも併せてお祝い申し上げます。また、このような榮譽ある式典にお招きいただき、祝辞を述べるという光栄に浴しましたことは、九州大学を卒業した私にとりましてこの上ない喜びでございます。

私は昭和三十二年に工学部機械工学科を卒業しましたが、半世紀前に皆さんと同じように、卒業式で学長の話を聞いていた自分を思い出しました。振り返ってみますと、昭和二十八年に入学し、日本一汚いと言われた六本松の寮「学而寮」で、四人居る一室の学生生活を送ったのは、今となつては懐かしい思い出であります。

食糧事情が悪かった時代に、皆で持ち寄った夜食を食べながら、理科室・文科系を問わず、先輩、後輩と一緒に夜を徹して様々なテーマで議論をしましたが、この議論の中で、色々な考え方や物の見方があることが理解できるようになりました。

した。このことが、その後の私の人間形成や物事の本質の捉え方に大いに役立ったと思っております。

「よく学び、よく遊ぶ」という言葉は、皆さん方も聞きなれた言葉であると思います。私がこのことが分り始めたのは、三菱重工に入社し、長崎で会社生活を送り始めてからのことですが、皆さん方も時々思い出して、何かの参考にしてくださいれば幸いです。

「よく学ぶ」の説明は必要ないと思います。「よく遊ぶ」とは、一人でインターネットに興じたり、仲間の意見を求めず一人で研究開発に没頭したりする、ということではなく、仲間と一緒にスポーツを楽しんだり、議論を交わしたりすることです。このことは、健康な身体と健全な人生観、職業観、社会観を身に付けるとともに、多くの人との良き人間関係を作り上げることにつながると確信しております。

また、皆さんの高等学校の同窓でありながら、何らかの事情で大学に進学できる機会に恵まれなかったものの、皆さん方の先輩として、社会で汗水たらして頑張っている方たちがいるということも忘れないでいた

だきたいと思います。

マスコミの調査によりますと、企業が新卒者に期待する資質のトップスリーは、「コミュニケーション能力」、「熱意」、「バイタリティー」でありましたが、私の企業人としての人生を振り返ってみても、いずれも重要なことだと思っております。

第一の「コミュニケーション能力」については、会社に入っても学生時代と同様に、上司や同僚、更には社外の人々など、周囲の人達と互いに意思を通わせながら社会の一員として業務を進めることです。第二の

「熱意」は、常に明るく、前向きに、しかも自信を持って物事を判断し、着実な努力を積み重ねていくことです。第三の「バイタリティー」は、「転がる石に苔は生えない」という諺があるように、物事にチャレンジ精神を持って当たり、困難にぶつかっても粘り強く、果敢に挑戦してゆくことです。これらの素地は、九州大学での四年間の学生生活の中で培われているはずであり、あとは如何にして行動に表していくかに掛っています。

皆さん方を迎えようとしている日本経済は、現在、アメリカのサブプ

ライムローン問題に端を発した金融不安、アメリカビッグスリーの経営危機他の影響で、基幹産業が業績不振に陥っております。また、少子高齢化や社会保障問題等もあります。更に地球規模では、環境問題やエネルギー問題等と、解決しなければならぬ課題が山積しております。問題が大きければ大きいほど、複雑であれば複雑であるほど、解決された時の達成感は大いいものです。九大学生ならではのチャレンジ精神で、これらの問題の解決にあたっていたいただきたいと期待しております。

私の高校・大学時代は、戦後の混乱期で、日本全体が貧しく、「どうやって今日の御飯を食っていくか」ということが最大の問題でした。昔からどの時代にあっても、それぞれの時代に特有な問題があり、その時代を生き抜いてきた人々が英知と努力をもつて、何とか問題を解決してきたことが現在の繁栄につながっております。プラス思考で考えれば、問題が多いということは取り組むことが多いということであり、翻って考えると皆さん方は「非常にやりがいがある」時代に門出するということでもあります。

私は現在、九州大学東京同窓会の

役員をしております。会社生活や研究生活においては、達成感もあれば挫折感を味わうこともあるかと思えます。そのような時には同窓会に出席して、福岡での学生生活や、学友との楽しい語らいの日々を思い出していただいて、明日への活力の糧にしたいだきたいと思えます。また、同窓会を活用し、九大人脈そして交流の輪を広げていただき、これからの人生において、よき師、よき先輩、気のおけない友人を持つてほしいと思えます。更には、九州大学が存在感のある大学として輝き続けるためにも、皆さん方の同窓会活動へのご支援をお願い致します。

最後に、先輩の一人としてはなむけの言葉を差し上げたいと思います。これからの長い人生においては、思いがけない不幸やいろいろな挫折に遭遇することもあるかと思えます。皆さん方は縁あって九州大学に入学し、福岡の地で実り多い学生生活を送られました。

九州大学の卒業生として「誇り」を持ち、困難に直面した時には是非「九大スピリット」を思い出し、ひるむことなく難局に立ち向かって行っていただきたいと思えます。三菱

重工長崎造船所に勤務しておりました時ですが、完成した船が母港の長崎を離れ、処女航海に出帆する時には、船の建造に携わった所長から女子社員までが、ブラスバンドの送別の演奏とともに、「ボン・ボヤージュ」と手を振るのですが、その心には「台風や荒波の中で遭難しそうなったときに、必ず母なる港の長崎を思い出して難局を乗り切ってほしい」という長崎の人々の気持ちが溢れておりました。

この日が皆さん方にとって、希望に満ちた新たな飛躍のスタートの日になることをお祝ひして、私の祝辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



佐賀高校出身九大学生の懇親会にて（左から2人目が増田相談役）



平成二十年度学位記授与式祝辞（要旨）

レウヴェン・カトリック大学副学長

マート・ブーケルス

Vice-President Martinus Buckers

重圧がある時、

「卓越性」が違いを生み出す



まず皆さんに、皆さんの言葉で歓迎の気持ちを伝えたいと思います。「皆さん、こんにちは。本日、ご挨拶する機会を頂きまして、誠に光栄です」

私は、本日この機会を頂いたことを光栄に思っています。同時に、興奮もしております。私にとって、今回は初めての日本訪問だからです。私は、今までに、レウヴェン・カトリック大学国際政策担当の副学長として、世界中の多くの国々を訪れました。しかし、まだ「抜けている場所」があると感じておりました。今年、進化論を唱えたチャールズ・ダーウィンの生誕二〇〇周年にあたりますが、彼の表現を借りるのであれば、「失われた鎖の環」とでも言いましようか。私にとっては、九州大学が、この「失われた鎖の環——missing link」だったのです。

今、申し上げたことは、私の祝辞の根本部分に関係することでもあります。私は、ダーウィンの基本的な考え方である「生存のための重圧（プレッシャー）」が、成功のための重要な要素であると考えます。ただ、これは単なる比喩表現であり、この主張を額面通りには捉えないでください。

親愛なる学生の皆様、皆さんは今、

我々が非常に困難な課題に直面していることを十分に認識しておられると思います。非常に強いプレッシャーがあります。世界は、類を見ない困難に対処すべく、新たな解決法を模索しています。銀行、企業、そして大学でさえも、今日の金融危機の過酷で厳しい影響を被っています。この危機は、明らかにネガティブな感情を引き起こしました。しかし、私が主張したいのは、プレッシャーは、必ずしも否定的な態度や悲観的な思考につながるものではないということです。反対に、プレッシャーは、ポジティブなエネルギーや美しいものを生み出すこともあります。

私は、私自身の専門であるスポーツと運動科学の例を引き合いに、私の主張を述べたいと思います。私は、バレーボールのコーチをしておりましたが、最も記憶に残っている勝利というのは、選手が不可能と考えることに向って努力した時のことです。最も価値のあった試合というのは、選手たちに自身の潜在性を最大限に発揮させ、それぞれが持つ卓越した能力にふさわしいプレーをするよう、努力させた時のことです。この経験により、私は、スポーツやプライベートルな時間、そして仕事中のプレッシャーへの対処法について、私自身

の考え方を变えました。この経験は、この素晴らしい学位記授与式におけるスピーチの内容を考える際のインスピレーションとなり、「重圧がある時、『卓越性』が違いを生み出す」というテーマに至りました。

このことについて、もう少し説明を加えたいと思います。そして、大学が、この「卓越性のプロセス」においていかなる役割を果たしうるか、また、果たさねばならないかを述べたいと思います。この十年間で、大学が置かれている状況は大きく変わりました。今日、グローバルゼーシ

ョン、国際化、技術革新、そして知識の移転などは、社会一般、そして特に大学を導いていく新たなキーワードとなっています。私は、このような、社会を動かす現象の一つである「国際化」に着目し、いかに国際化が学生の生活に影響を与え、頭脳流動性が「卓越性」を養い、そして、その結果、私たちが現在直面している数々の問題に対する解決法を生み出していくか、説明したいと思っています。

OECD（経済協力開発機構）の報告書によれば、これからの二十年間で、学生のモビリティ（流動性）が飛躍的に高まるとされています。二〇二五年までには、八〇〇万人の

学生が、出身国と異なる国で学ぶであろうと予測しています。この数は驚くべきものです。大学は、学生が留学を体験し、国際的な思考と世界に開かれた視点を必要とする仕事を担っていくための準備をして欲しいと願っています。この考え方は、「大学サミット・イン・九州二〇〇〇年宣言」においても、明確に示されています。

この宣言は、レウヴェン・カトリック大学の使命声明文と完璧に合致しています。レウヴェン・カトリック大学の使命声明文には、以下のようにならされています。「レウヴェン・カトリック大学は、国際的志向性を持つ大学として、国外から訪れるゲストを、心を込めて受け入れる数世紀来の伝統を継承していきます。大学同士の緊密な協力と学生・教員の交流を通じ、大学の発展と知識の移転が、欧州、そして世界中の文化と科学を豊かにしていきます」

学生の流動性が活性化した結果、「優秀な学生の獲得競争」が起きました。大学が優秀な学生を求めて競争すること自体は、必ずしも悪いことではありません。反対に、教育の場においても、競争するプレッシャーは「卓越性」を引き出します。教育や研究事業の質を高めるからです。

もちろん、学生の獲得競争が、我々の基本的使命を妨げないよう、気を付ける必要はあります。私たちは、公平で適切な学生の流動性を保障しなければなりません。

質の高い学生の流動性を保障する、よりよい方法は、大学協定チャンネルを利用することにあります。これにより、それぞれの大学の職員同士がコンタクトを取り合うことが可能になります。これは重要なことです。九州大学とレウヴェン大学は、長年にわたり、この重要性を認識してきました。両大学とも、世界中の協定校との緊密な協力を大切にしています。協定が実りのあるものになるためには、学生の流動性が持続的なものであり、協定校同士の活発な共同研究が不可欠です。

親愛なる学生の皆様、皆さんのご両親や祖父母、そしてその他の家族の方たちは、皆さんの成功にとって不可欠な存在であったことでしょう。皆さんの勉強の間、心からの応援や同情、そして無条件のサポートをなしてきたことを皆さんは認識されていると思います。彼らは、皆さん一人一人を支えた「静かなる力」であると私は考えます。この力がこれからはもずっと皆さんと共にあることを願います。

ご来賓の皆様、このスピーチの始めに、私は、重圧が成功への重要な要素であると述べました。そして、これは比喩的表現であると述べました。世界の現状を、詩的に表現したのです。私の祝辞の最後に、世界的に有名な芸術表現である「俳句」の形式で、私自身の気持ちを表したいと思っています。

重圧が
未来ひらけば
師微笑む



レウヴェン・カトリック大学

レウヴェン・カトリック大学については、本号の32ページに詳しい紹介があります。



平成二十一年度入学式祝辞（要旨）

国立台湾大学総長

李嗣涔

Si-Chen Lee



九州大学に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。ご家族の方々にも心からお祝いを申し上げます。

本日から皆さんは、晴れて、日本の多くの学生が目標とする九州大学の一員となられたわけですが、この日に至るまでに、皆さんが弛み

い努力によって一つの目標を達成させたことは、大変に喜ばしいことです。しかし、その一方で、喜びに浮かれることなく、今一度考えなければならぬことがあります。やがて訪れる人生の黄金期に向けて、どのようなイメージを描き、どのような道筋を設計するのか、ということです。

周知のように「大学」は、人生における最も重要な学習の場であります。ここにおいて「専門知識や技能」が習得され、「価値観」が形成されます。つまり、将来、皆さんがどのような人物となるのかを決定づける最も重要な時期が、この大学時代に当たります。皆さんが真の知識人となるために、各部門での重要な担い手となるために、そして、様々な分野でのリーダーとなるために、人生の先輩として助言を申し上げたいと思います。

大学時代においては、少なくとも以下に述べる四つの姿勢を心がける必要があります。

一、急速に変化する現代社会に対応するために幅広い基礎科学の知識を得ること

二十一世紀はいわゆる知識経済の時代です。ITの普及とハイテクノ

ロジーの急速な発展により様々な知識が大量に累積し、社会や産業の形態は目まぐるしく変わっています。十年後には、現在まだ存在していないテクノロジーや産業が創出されるかもしれません。こういった世の中の変化と向き合うために、大学では何をどのように学べばよいのでしょうか。対処法はほかでもありません。

広範に各学問の基礎知識を学習しておけばよいのです。例えば、物理、化学、数学、生物、そして文学や歴史学、哲学などを古典から読み、自身の教養を深め、基礎を作っておくことです。さらには、基本的な情報処理能力も身に付けなければいけません。様々な経験をし、知識を吸収することで自らを「教養人」とさせる必要があるのです。これにより、急激に変化する世界において、方向を見失うことも遅れをとることもなくなるでしょう。

二、自分の個性を作り、革新的なアイデアを生み出す力を身に付けること

本日、新たに二六八六人の新入生が九州大学の構成員に加わったわけですが、同時に中国では五十万人、インドでは四十二万人の、皆さんと同じくらい優秀な学生が優れた大学

の門を叩きます。彼らの生活水準は日本ほど恵まれたものではありません。しかし、そうであるがゆえに、彼らのハングリー精神や向上心、また、忍耐力は、他の地域の比ではないのです。グローバル化の進展によって産業競争は一層激しさを増しています。もはや避けることができない彼らとの競争に際して、皆さんは何をすべきなのでしょう。キーワードは「革新性」です。それは、自らの個性、すなわち「自分らしさ」と独創的な発想を磨き上げること、そして、常に挑戦的な夢を掲げ、その夢を実現させようとする勇氣と強い意思を持つことによって可能になります。「自分らしくあれ」と言っても、それは、薄っぺらな思想で好き勝手に振る舞うとか、単なる目立ちたがりとか、そういったことを指しているわけではありません。本当の意味で「自分らしく」あるためには、多方面から知識を吸収し、それを探究して、自分の才能と適性を認識することが大切です。それによって初めて、人とは異なる能力を備えているという認識が生まれるのです。この個性と革新能力こそが、自分の存在価値と将来の発展を確保する最も重要な鍵である、ということをお忘れずにいてほしいと思います。

三、人類社会が抱えている危機に心を持つこと

とめどなく発展を続ける科学技術と蔓延する利己主義によって、人類は今だかつて経験したことのない危機に直面しています。自然資源の枯渇や地球の温暖化、さらには人間関係の希薄化やモラルの低下といった問題に至るまで、今日の人類が抱える問題は自らの社会の存続さえも脅かそうとしています。このような状況にあって、一大学生としては、人類の生存に関わる様々な問題に絶えず関心を持ち、よく観察して考えを巡らし、解決策を導き出そうと努力しなければいけません。オランダの哲学者スピノザが「この大学を通じて宇宙の精神に貢献すべし」と言ったように、一人一人が最善を尽くし、地球人としての責務を果たすことが大切なのです。

四、鋭敏な国際感覚で新興国家の文化や政治経済的状况を理解すること
現代は既にグローバル化の進展した時代であり、国家と国家の間で、または民族と民族の間で盛んに交流が行われています。国内にある様々な産業も、製造業であるかサービス業であるかを問わず、多国籍企業の形態をとるものが増えています。こ

のような状況に対応するために、大学生は海外へと目を向け、国際感覚を養い、世界各国の文化や政治経済的状况への洞察を深めなければいけません。とりわけ、ブラジル、ロシア、インド、中国といったBRICSと呼ばれる新興国家の動向には注目しておく必要があるでしょう。

「先ずれば即ち人を制し、後るれば即ち人の制するところとなる」と漢書にあるように、世界の様々な国に関する知識を蓄えておくことで、先見の明のあるグローバル戦略が可能となるのです。将来、こういった力を試す機会が皆さんにも訪れます。その力を存分に発揮することが企業や国家の発展へとつながっていくのです。

新入生の皆さん、皆さんが大学生となった最初の日に、私は以上の四つの助言を皆さんに送ります。四、五年後、皆さんが立派な国際人として成長し、自分を誇りに思える人物に育ち、九州大学という大きなファミリーに輝きをもたらすことを固く信じております。



国立台湾大学

国立台湾大学は、台湾の政治・経済・文化の中心である台北市に所在する総合大学であり、受験競争の厳しい台湾にあっては、最難関の大学とも言われている。大学組織は、「学院」（学部）のもとに「系」及び「科」を有し、現在は11学院（学部及び研究科）、54学系（学科）、96研究所（専攻）、33研究中心（研究所）と夜間部を擁し、3万人を越える学生が通うマンモス校である。

貴学の総長室には、中華民国（台湾）の国父である孫文氏の貴重な書が掛けられています。この書は、一九一三年、孫文先生が九州大学を来訪した時に書かれたものだそうです。ここにある「学道愛人」という四文字は、九州大学の全ての人々に送る、「学問の探究を通じて世界を愛する」という意味のメッセージです。百年後の私も同じ願いをこめて、この祝辞を締めくくりたいと思います。ありがとうございます。

さようなら そして ありがとう

六本松

六本松の歴史(三)

新旧両制度の学生・生徒

九州大学文書館教授 折田悦郎

戦後しばらくの間は、様々な分野で新旧両制度が併存した時期である。それは九大でも例外ではなかった。

例えば昭和二十四年（一九四九）の九大の学生定員は、新制、旧制共に各一〇四〇名、計二〇八〇名であった

が、旧制の入学者は、直接「本学」

（箱崎、医学部地区）に進み、専門教育を三年間受けた。これに対して

新制の学生達は、同年六月に入学試験を受け、九月から各「分校」で一般教育を受講、その後「本学」で専門科目を二年間学んだ。今回はこれ

ら新旧両制度の学生・生徒の入学・卒業等に焦点を当て、新制九大初期の様子を見てみたい。

まず昭和二十四年の旧制入学者であるが、彼らは同年三月一日〜十七日に入学試験を受けた。その結果、

①旧制大学卒業生一・二名、②旧制高校卒業生・大学予科三年修了者五十七名、③旧制専門学校・教員養成諸

学校卒業生三八九名、④その他三七

名の入学が許可されている（文科四

三七名、理科五七八名、計一〇一五

名）。②が福高等をはじめとする旧

制高校卒業生、③がいわゆる「傍系」

（旧制高校ではなく、高等商業等の

「専門学校」を卒業した人達）出身

者で、高卒と「傍系」の比率はほぼ

六対四となっている。「傍系」は戦

前同様、法、経、文の法文系学部にな

多く、全「傍系」出身者三八九名中

二四六名が、法学部（傍系六四名、

高卒者七一名、以下同）、経済学部

（一二五名、七四名）、文学部（五

七名、一九名）への入学であった

（これに対して医学部は一〇七名全

員が旧制高校卒業生）。

一方、新制最初の学生達は、新年

度になった昭和二十四年六月八日〜九

日に国語、数学、理科、社会、外国

語の入学試験（五教科）を受け、九

月から各「分校」で一般教育を受講

した。参考のために旧制同様、昭和

二十四年の新制入学生についてもその

内訳を記しておけば、①新制高校卒

業者四三六名、②旧制高校・大学予

科一・二年修了者四八四名、③旧制

専門学校・教員養成諸学校一・二年

修了者八八名、④新制大学入学資格

認定合格者七名を含むその他一九名

となっている（文科四七七名、理科

五五〇名、計一〇二七名）。当然の

ことながら、前年の昭和二十三年四月

に新設された①新制高校卒業生の数

が目につくが、全体では②旧制高校

・大学予科一・二年修了者（若干は

福高に即して後述）の方が①を上回

っており、理科では特にその傾向が

強い（理科は①一六二名に対し、②

三三八名。文科は①二七四名に対し

て②一四六名）。当時の『九州大学

新聞』によれば、文科の旧制出身者

は「福高四八、佐高三八、五高二四、

七高二二、大分経専（現大分大学経

済学部）引用者注、以下同）一〇」、

理科は「福高一〇四、五高七一、七高六三、佐高五三、明治工専（現九州工業大学）一五、山口高一四」。

新制高校出身者では文科が「県立福

高三三、熊本高一九、修猷館一六、

筑紫丘高一五、大分一高一二、済々

黌、佐賀一高、唐津一高各一〇」、

理科が「県立福岡一八、修猷館一四、

熊本高九、筑紫丘七、済々黌七」で、

九大の新制入学者については「新制

高校では地元の福岡、修猷、筑高が

断然優位に出で、他県では熊本高校

が抜群の成績」という状況であった。

いずれにしろ、冒頭にも述べたよ

うに新制大学の始まった昭和二十四

年は新旧両制度が併存した時期である

が、その様子を最もよく現すのが、

本シリーズの初回でふれた「九州大

学福岡高等学校」の存在である。旧

制福高の卒業生は第二六回生が最後

であるが、彼らの卒業は昭和二十五年

（一九五〇）三月なので、実は九大

第一分校の置かれた昭和二十四年七月

（あるいは入学式のあった九月）か

ら数えると、七〜九ヶ月間、六本松

では新制の分校生（大学生〈角帽〉）



九州大学福岡高等学校の門標



学而寮東2寮8室員（昭和26年。於第一分校校庭。瀬野精一郎氏＜新制九大2回生、写真中央＞提供）。

と旧制の福高生（高校生へ丸帽）が同居していたことになる。校門の門標も「九州大学第一分校」と「九州大学福岡高等学校」（前写真）という二つが掲げられていたものと思われ、特に後者は福高生には評判が悪く、樋井川に投げ棄てられたこともあったと言う。旧制高校生気質が知られるエピソードであるが、彼らは旧制の特典を活かして、『福岡高等学校学而寮史』という立派な寮史を自らの手で作成し、卒業していった。

なお、旧制高校（福高等）には、昭和二三年四月に入学した最下級生（福高生）がいた。福高の同窓会名簿では第二七回生とあるが、彼らは卒業生では無く「修了生」扱いである。昭和二三年度の一年間だけ高校生活を送った後、高校を「追い出さ

れ」改めて新制大学最初の入学試験を受けた。一年ちよつとの間に旧制高校と新制大学の受験を経験した世代で、年代的には昭和五年（一九三〇）度生まれか、旧制高校は中学四年修了で受験できたので、中学「四修」なら昭和七年早生まれまでの人が、一年間だけだが最後の旧制の門をくぐったのである（現在七七歳以上の人達）。繰り返しになるが、彼らと九大、あるいは福高との関係を再度述べると、六本松一年目は福高最後の一年生、一年修了後、九大を受験

・合格したとすると、今度は新制一期として九大に入り、旧制高校の先輩である「九州大学福岡高等学校」三年生と半年以上同居したのである。因みに大学卒業は新制第一期（昭和二四年九月入学）、旧制最後（昭和二五年四月、旧制大学に入学）共に昭和二八年（一九五三）三月で、新旧同時の卒業はいわゆる「就職難」を招いた。証言によれば旧制卒業者の方が先に就職が決まったと言

う。それから、新制九大には女子学生の入学もあった。しかし、九大は帝大時代以来、法文学部での女子入学を認めていたので、数的な増加はあったものの、九大最初の女子学生というようなことはなかった。ただ、上に述べた最後の福高一年修了生の中に、唯一の女子高校生（足立玲氏）がおり、この人が新制九大を受験、医学部に進学している。



旧制福高第27回生（昭和23年。中央：唯一の女子福高生足立玲氏。前列中央：中沢貞治教授。高岩淡氏＜前列右から2人目＞提供）。



新制第2回女子学生歓迎会（昭和25年。於足立玲氏＜後列左端＞邸。植村順子氏＜前列左端＞提供）。

（1）九大はこのとき以来、昭和四四年の大学共通一次試験の実施まで、いわゆる国立二期校であった。（2）『九州大学新聞』昭和二五年三月一〇日、「昨年度入試統計 旧制高校が優位 新制では福高がトップ」。

（3）この「九州大学福岡高等学校」の標札は、先年「再発見」されて、九大大学文書館に所蔵されている（『西日本新聞』平成一七年一月一四日朝刊、「改称一〇ヶ月「九大福岡高校」幻の看板半世紀ぶり 九大に寄贈、公開へ」）。

（4）旧制高校と帝大との接続関係は密接だったので、最後の福高生も旧帝大を中心に進学している。内訳の一部を記せば、卒業生二七二名中、九大一七六名、東大三九名、京大一一名、北大二名、東工大三名、熊大八名（内医学部七名）等である。

（5）その編集後記には「寮史が発刊されるころはもう福高は九州大学福岡高等学校というぬえの様な名前になって、角帽と丸帽とが同居している事と思う。そして来る三月には私達は最後の卒業生として校門を出て行かねばならない。誰にも送られず只私達だけで。」（傍点引用者。『福岡高等学校学而寮史』、福岡高等学校学而寮寮史編纂委員会、昭和二四年一〇月）とある。

（6）前述した新制大学第一回受験生の②（本文一五頁）にあたる人達である。彼らの新制大学進学先は、修了者二六三名中、九大一八三名、東大二五名、京大七名、その他四八名であった。

百周年 記念事業 ③

知の新世紀を拓く

寄附報告

九州大学百周年記念事業の趣旨にご賛同いただき、多大なご協力・ご支援を賜り深謝いたします。

創立百周年の二〇一一年に向けて、更なるご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

1 法人

寄附の区分	件数	申込額（千円）
企業・団体等	274	1,711,515
2 個人		
寄附の区分	件数	申込額（千円）
卒業生	2,946	166,191
在学生の保護者・有志	515	15,540
教職員、退職者（名誉教授等）	980	164,037
個人篤志家（又は企業）	1	150,000
合計	4,716	2,207,283

（平成21年4月30日現在）

●お問い合わせ先

九州大学百周年記念事業推進室

〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1

電話 092-642-7397・7398 FAX 092-642-2113

E-mail 100thinfo@jimu.kyushu-u.ac.jp

用途を特定された寄附の紹介(2)

福岡銀行連携事業「アジア財務戦略」

経済学研究院におきましては平成二十年度より、百周年記念事業の一環として福岡銀行のご寄附による連携講座「アジア財務戦略」を開講しています。

これはアジア各国の金融・ビジネス環境や日系企業のグローバル財務戦略の研究・教育を実施し、学生に実体経済の動きを高度なレベルで習得させるとともに、アジアへ事業展開する地元財界への啓蒙を目的とするもので、以下の三つを主な柱としています。

① 講義

経済学研究院の修士・博士課程およびMBA課程を対象に、「アジア財務戦略」および「アジアのビジネスと金融」の講義を実施しています。前者はアジアの金融情勢やアジアビジネスを主に財務戦略の側面からレビューするもので、折からの世界金融危機の動向を含め毎回リアルタイムで進行している事象をケースとして取り上げ、好評を博しています。また後者は、毎回内外の学者や実務家を外部講師として招聘し、最新のアジア経済情勢を学ぶもので、こちらも毎回熱気にあふれた講座が続いています。学生へのアンケート調査結果をみるといずれも「極めて有益であった」「この授業を他の学生にも薦めたい」という回答がほとんど

で、このテーマへの関心の高さが窺えます。

② スタディツアー

上記講義の一環として、院生をアジアの金融・ビジネスの現場に案内し、そのダイナミズムを体験させるため、毎年一回スタディツアーを実施しています。二十年度は香港に約三十名を引率して、JETRO香港センター、香港政府貿易發展局、新光証券香港有限公司、香港大学、香港科技大学を訪問し、香港の経済情勢、金融環境、中国ビジネス動向、世界金融危機の影響などにつき生の情報を収集しました。さらに中国の深セン、東莞にも入国し、中国一といわれる発展のスピードや日系の電子部品メーカーの運営状況を目の当たりにしました。参加者の所感としては、「通常ではなかなか訪れることができない訪問先ばかりであった」「激動する国際金融の現場の熱気を感じた」「中国人の消費意欲と日本製品の人気の高さに驚かされた」「名実ともに香港が国際都市であることを再認識した」など、貴重な体験を得た感動が寄せられています。なお二十一年度以降は、同じくアジアの金融センターである上海、シンガポールへの訪問を予定しています。

③ ビジネスフォーラム

当プログラムのキックオフイベントとして、昨年十一月に福岡市内において「アジアビジネス戦略フォーラム」を三〇〇名の参加を得て開催しました。世界金融危機やチャイナリスクなど、アジアのビジネス環境がますます不透明化するなかで、各企業はどのような戦略を取るべきか、内外の著名なエコノミストや実務家による講演やパネルディスカッションにおいて、北京五輪後、金融危機下での中国経済の成長持続性や今後の構造改革の可能性、東南アジアやインドを含めた「チャイナ・プラスワン」の潮流などについて活発な議論が展開されました。

日本とアジアとの連携がますます深まっていくなかで、九州が名実共にアジアへのゲートウェイとして機能することが期待されます。当講座が少しでもそのお役に立てることができれば幸いです。



経済学研究院
特任教授 丹羽 由一



寄附者ご芳名

(法人等団体の皆様)

九州大学百周年記念事業にご協力・ご支援をいただいた法人等の皆様からのご芳名を掲載させていただきます。

本号においては、平成二十一年一月より四月末日までに寄附申込をいただいた皆様を五十音順で掲載しております。

アオヤギ株式会社 様
有限会社赤壁商店 様
アサヒビル株式会社 様
株式会社アトックス 様
株式会社アドバンスト・ケープル・システムズ 様
阿部建設株式会社 様
荒木商事株式会社 様
磯部鉄工株式会社小倉工場 様
出光興産株式会社 様
株式会社稲盛機工店 様
株式会社イワサキ 様
岩谷産業株式会社 様
株式会社植村組 様
株式会社宇治川商店 様
宇部興産株式会社 様
株式会社栄電社 様
大井電気株式会社九州支社 様
株式会社大本組 様
大淀化工株式会社 様
岡野商事株式会社 様
オルガノ九州株式会社 様

岳南建設株式会社福岡支店 様
春日電気株式会社 様
株式会社川北電工 様
川崎地質株式会社九州支社 様
株式会社菊川鉄工 様
株式会社岸本組 様
北九州エル・エヌ・ジー株式会社 様
北九緑土株式会社 様
株式会社北野商店 様
キャノン株式会社 様
九州内田鍛工株式会社 様
九州計装エンジニアリング株式会社 様
株式会社九州山光社 様
九州自動車リース株式会社 様
九州大学大学院比較社会文化研究科・学府同窓会 様
九州大学コールアカデミーOB会 様
九州大学歯学部同窓会 様
北九通信工業株式会社 様
九州電気産業株式会社 様
九州電工株式会社 様
九州ミタカ電機株式会社 様
九商株式会社 様
株式会社九南 様
株式会社共新電機 様
倉本鐵工株式会社 様
桑名電建株式会社 様
株式会社神戸製鋼所 様
光和産業株式会社 様
古賀電気工事株式会社 様
五常物産株式会社 様
小牧建設株式会社 様
株式会社西海建設 様
西技工業株式会社 様
西技測量設計株式会社 様
斉藤建設株式会社 様

三桜電気工業株式会社 様
三交設備株式会社 様
三洋工機株式会社 様
ジェイエフイーホールディングス株式会社 様
四国電力株式会社 様
白鷺電気工業株式会社 様
株式会社新来島どつく 様
新菱冷熱工業株式会社 様
株式会社すずき 様
住友金属工業株式会社 様
正興電気建設株式会社 様
誠新産業株式会社 様
大五建設株式会社 様
大徳電業株式会社 様
台北駐大阪経済文化弁事處福岡分處 様
タツタ電線株式会社福岡支店 様
チクシ電気株式会社 様
長愛株式会社 様
株式会社寺原建設 様
株式会社電通九州 様
東亜建設工業株式会社 様
株式会社東九 様
株式会社東京久栄 様
東興建設株式会社九州支店 様
豊光産業株式会社 様
東光電気工事株式会社九州支社 様
TOTO株式会社 様
東豊電気工事株式会社 様
東レ株式会社 様
株式会社東和 様
東和産業株式会社 様
トキコテクノ株式会社 様
戸畑共同火力株式会社 様
株式会社名村造船所 様
株式会社にしけい 様
西日本鉄道株式会社 様

ニシム電子工業株式会社 様
日動電工株式会社 様
株式会社ニチレイ 様
日本製粉株式会社 様
株式会社ニューオータニ九州 様
ノイエス株式会社 様
野里電気工業株式会社 様
人吉電気工事株式会社 様
福岡造船株式会社 様
福三商工株式会社 様
株式会社フジクラ 様
不二製油株式会社 様
富士通株式会社 様
藤津碍子株式会社 様
富士電機ホールディングス株式会社 様
株式会社富士ビー・エス 様
株式会社フチガミ 様
平和電業株式会社 様
株式会社堀内組 様
前田建設工業株式会社九州支店 様
松本建設株式会社 様
丸三工業株式会社 様
三井住友海上火災保険株式会社 様
三井石油開発株式会社 様
三井物産株式会社 様
三井松島産業株式会社 様
三菱商事株式会社 様
明豊電設株式会社 様
株式会社もしもしホットライン 様
ヤマエ久野株式会社 様
吉原建設株式会社 様
株式会社菱熱 様
株式会社渡辺写真 様
(以上、本号掲載一四法人等団体様)



英語研修の学生スタンフォード大学構内にて



遠隔授業を聞く学生たち



九大感謝の夕べで記念撮影をする右から梶山前総長、吉田福岡市長、長嶺総領事、Robert Huang氏、井手JUNBA会長、松尾CAオフィス所長

カリフォルニア(CA)オフィス 活動報告

皆さん、しばらくぶりです。前にCAオフィスのことを広報誌に書いたのは二〇〇七年三月号でした。あれから丸二年、CAオフィスも大きく変わりましたので以下に報告します。

一番変わったのは二〇〇八年一月に本格的なオフィスをサンノゼ市に開設したことです。それまでは私の自宅にオフィスを置いていましたが、CAオフィスの活動が活発化したことが認められてオフィス開設の許可が出ました。それと同時に事務職員の駐在が決まり、第一期として梶原事務員が赴任してきました。この新スタートの機会にこれまでお世話になった講師やシリコンバレーの皆さんへの感謝を込めて「九州大学感謝の夕べ」を開催しましたが、日本から吉田福岡市長、梶山前総長、柳原国際担当理事(当時)などが参加され、合計一二〇人からなるゲストの方を招待して賑やかな夕べとなりました。

CAオフィスの二〇〇八年度の活動は以下の三つに集約されます。

1 二回の遠隔授業

二〇〇八年度は前期に「九大生よ、ビジネスを学ぼう」と後期に「九大生よ、リーダーになろう」の二回の授業を遠隔で行いました。

ビジネスの講義は、前半は中野克彦講師(元日本ゼオン社長)に会社内での生き方について、後半はベンチャーキャピタリストや実際に会社を興した経験者から会社を興すとはどういうことかについて話していただき、約五十人が熱心に受講しました。後期のリーダーシップ講義は、在サンフランシスコ日本国総領事をはじめとするシリコンバレーのリーダーの皆さんに交代で、それぞれの方が考えるリーダーの在り方についてお話しいただきました。

参考までに、二〇〇九年度前期は、再度ビジネス講義を開始しました。今回は横浜市立大への配信を始めることとし、第一回目の授業は合計で一〇〇人を超す参加者があり好調なスタートを切っています。

ます。

2 モントレーでの英語研修

二〇〇七年に続いて二〇〇八年も全員ホームステイで四週間の英語研修を実施しました。今回は二十七人の参加があり、前年の九人から大きく進歩しました。研修はサンノゼから南に車で一時間半のモントレイ市にあるモントレイ国際学習研究所(Monterey Institute of International Studies)に行いました。今回は医学部から十二人の参加があり、特に医学用語を使うプログラムも入れて、多少専門的な部分も作りました。米国同窓会基金を利用したフィールドトリップでは、スタンフォード大学でノーベル賞受賞者のポール・バーク博士の講演、グーグルで社内見学と昼食、STEMセル研究で有名な山中博士がポストドクをされていて、今でも研究室があるGladstone Instituteの訪問ではお弟子さんから研究の内容につきお話を伺いました。二十七名全員無事にそれぞれの思い出と成果を持って帰ることができました。



CAオフィス所長
松尾 正人

今年は、サンノゼ州立大に場所を移して、八月二十四日から四週間のホームステイによる英語研修を行います。ポストドクなどの研究者を対象にした技術英語研修も企画中です。詳しくは国際部にお尋ねください。

3 第四回QREPの実施

毎年三月に行われる研修会はQREPといわれ、シリコンバレーにて一週間の研修を行うものです。これについては次頁に詳しく報告していきますので、ここでは省略します。

二〇〇九年度も色々と工夫して九大の学生の国際化への支援を行いたいと思っています。新しいオフィスは、サンノゼの五番街とよばれるSantana Rowという美しい通りのすぐそばにあります。当地にお越しの節はぜひお立ち寄りください。お待ちしております。



CAオフィスのすぐ隣には美しいショッピング街サンタナ・ロウがある



スタンフォード大学西教授の講義



インキュベーターPlug & Playを訪問写真



藤村道男氏の講義を聞く学生たち

「第四回二〇〇八年度QREPが成功裏に完了しました。」

九大が誇るシリコンバレーでの教育プログラム

「QREP（ロバート・ファン／アントレプレナーシップ／プログラム）について

知的財産本部副本部長

谷川 徹

カリフォルニアオフィス所長

松尾 正人

知的財産本部とカリフォルニア・オフィスが協力して、毎年三月に行っている起業家精神高揚プログラムは、今年第四回目を迎え、多くの思い出を残して成功裏に終了しました。このプログラムは起業家精神やハイテクビジネスの世界的な中心地であるシリコンバレーの地にて、チャンレンジ精神や国際的感覚の養成などを目的とする一週間の教育プログラムで、通称「QREP（キューレップ）」と呼ばれています。

QREPは、九州大学を卒業し米国で大成をおさめたロバート・ファン氏（一九六八年工学部電子工学修士卒、現Symex Corporation社長）の寄附金を核とし、米国在住の同窓生からの寄付金を加えた基金を活用し開始されました。プログラムは、シリコンバレーで活躍する起業家、ビジネスマン、地域のリーダーなどによる多彩な講義やシリコンバレー特有の企業や

研究所等の訪問とそこで働く人との交流、そしてスタンフォード大学での米国学生とのディスカッションなど、ユニークかつ充実したカリキュラム構成で実施しています。

シリコンバレーにオフィスを構えている日本の大学は現在六大学ありますが、本学の持っている独自のコネクションを生かして構成しているこのプログラムは多くの注目を集め、過去四回の参加学生の数は総数一〇〇人を超えました。本年のQREPは三月一日から七日の間で行われました。今回は

九大生二十一一人に加え、第二回から参加の早稲田大学学生も五人参加し、恒例となっている米国同窓会主催歓迎レセプションでは早稲田と九大の同窓生との交流を通し、日本と違うビジネス環境や考え方に触れました。

今回は、英語による講義も四回あり、数人の留学生によるパネル

ディスカッション、当地の米国企業で働くエンジニアやバイオ研究者との議論会では、比較的同世代の人々からさらに深く踏み込んだ話をしてもらいました。また、フイールドトリップではSynnex社、IBM研究所、グーグルなどを訪問してそれぞれの企業の活動についての話を伺いました。

学生達が一番苦労したのはスタンフォードの学生との議論会です。グループに別れ、日本からアメリカに持って来たいビジネスを三種類提案しました。それに対してスタンフォードの学生から活発な意見・質問や改良アイデアの提案があり、言葉の問題もあって戸惑う場面もありましたが、それなりに苦勞して無事に結論を導くことが出来ました。最終日の夜はお別れレセプションが開かれ、講師やゲストの前で学生たちの一人一人が感想を発表しました。これまでも

毎年参加者に大きな感動を与えて

きましたが、今年もそれぞれの学生の決意発表は印象深いものでした。

主催者側としては、学生たちがこのプログラムに参加して、シリコンバレーで活躍する様々な人々の活動や生き方に直接触れることにより、自立した社会人として積極的に新しい物事に取り組んでいく姿勢や、自分が持っている個性を最大限に生かしながら社会で活躍していく方策を学びとってもらい、その後の人生を生き抜く新たな価値観を形成してもらいたいと念じています。幸いこれまでの四回のQREPは明らかに狙った効果を与えてきたことを実感として感じています。QREPは今後も継続してゆく予定ですので多くの学生の参加をお待ちしています。

シリーズ研究

FRONT
RUNNER

ふろんとランナー

「ふろんとランナー」は、九州大学の研究の最前線をインタビューで紹介するシリーズです。シリーズ第十四回目は、健康科学センターの熊谷秋三教授に、情報基盤研究開発センターの南里豪志准教授が聞きます。



健康科学センター 教授

健康支援学 熊谷秋三

くまがい しゅうぞう

聞き手 情報基盤研究開発センター 南里豪志准教授

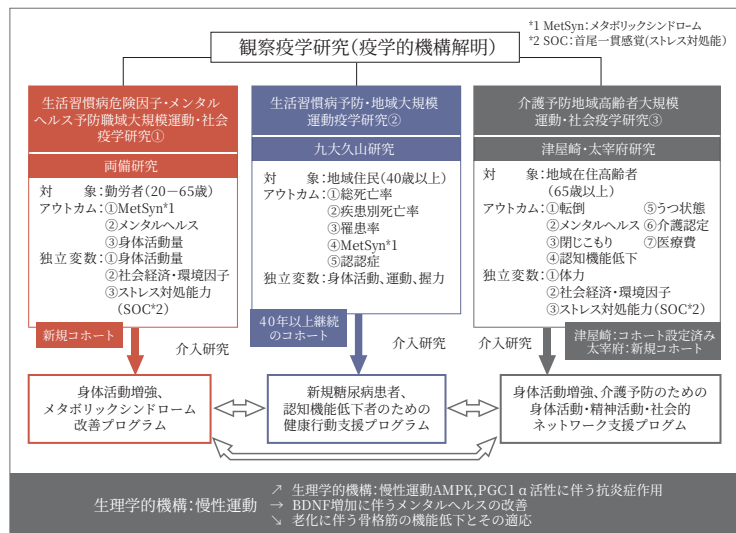
健康づくりの集団戦略、
社会疫学の時代へ

南里 昨年、「健康と運動の疫学入門」という本を上梓されました。本の中に「疫学の証拠なしに運動効果に関する基礎研究はあり得ない」「健康と運動の疫学」研究の発展が不可欠であるとの文言が熊谷先生の信念として紹介されています。疫学と聞くと医療の分野をイメージするのですが、健康のための運動、スポーツに疫学の視点を取り入れることはかなり画期的なことだったのでしょか。

熊谷 医学的な疫学の領域の本はたくさんあるのですが、健康や運動に関する疫学のテキストがなかったのは事実です。私は二十七年、佐賀医科大学に奉職した当時から健康や運動の疫学に興味があり、ライフワークとしてこういうテキストを出版したいとずっと念願してきました。それが、この本が生まれるきっかけです。

南里 この本を読んで意外だったのが、例えば、メタボリックシンドローム、ガン、心疾患、うつ病や高齢者に対して運動が効果的だという報告があります。特に認知症などに関

運動・社会疫学研究の証拠に基づく健康支援の構築



国内初の「健康と運動の疫学」に関する入門テキストを上梓。
疫学的証拠に基づいた健康支援を展開する。

としては社会ネットワークを構築したり、知的な活動に加え、運動との関連性も強いというお話があって、身体を動かすことがどうも大事らしいと。

熊谷 運動も大切な行動ですけれども、運動よりも強いファクターは他にもあります。私は食事の影響のほ

うが運動よりもインパクトが強いと思っています。ネズミの実験だと、六割くらいまで節食したほうが普通の摂食よりも様々な臓器の機能にとても好ましい様です。ただ、最近の分子生物学的な研究によると、運動に伴う諸効果の分子生物学的なメカニズムは、栄養制限と非常に類似性があつたり、あるいは、ある種の食成分が運動と類似した筋肉の適応をもたらす、という報告もあります。例えば、ミトコンドリアのバイオジェシスは、運動によって高まりますが、栄養制限やある種の食成分でも高まります。ですから、私が興味があるのは運動と同様にエネルギーの制限が非常に類似した反応をもたらすというメカニズムの類似性にあります。すなわち、生体がエネルギーの枯渇を感じることが大事で、運動、栄養制限とも同じような反応が出る可能性があり、結果的に肥満を抑制したり、メタボリ

ックシンドロームを抑制したり、炎症による心臓血管系の疾病を抑制したりするところにひょっとしたらつながっていくかもしれないと考えられています。

熊谷 これまで行われている健康づくりは医療モデルに近いのですが、医療モデルは個人、しかもリスクのある人がターゲットとなります。それに対して、私の研究は、潜在的に不健康な人、あるいは今は健康な人たちが予防的に良い方向に持つていくにはどうしたらいいかということを考えます。集団戦略（ポピュレーションストラテジー）といって、非常に難しい戦略なのですが、それを解決する学問として社会疫学があると思うのです。

熊谷 地域や集団といった社会単位で捉えるのですね。

熊谷 実は、運動行動は、社会心理学的要因、社会経済的要因、社会



聞き手の南里准教授。

環境的要因によっても規定されており、社会には健康の不平等も存在しております。運動は健康を左右している一つの重要な要因ですが、運動という行動だけで健康を論じるのは不十分だとも思います。運動することによって知的な活動や社会的ネットワークを構築することができ、それが結果としていい環境を構築していくためのイニシエーションになっている可能性もあると思います。

熊谷 運動も食事制限も健康になりたいということではやるわけですけども、健康というのはあくまでも生きがいを目指す上での副産物である。健康そのものを目的にして運動に呪縛されるのはまずいのだということもおっしゃっています。

熊谷 私の専門は体育スポーツ科学ですが、スポーツや身体運動とは何

か、ということを考えて簡単です。健康になるためにやっているのではなく、体育・スポーツ活動そのものの中に喜びや意義がある。それが本来的な運動の目的、原点なのです。それがどうしても肥満のための運動療法といったように、手段として使われてしまう。本来人間としてあるべきものの以外のことをさせられているから、「ねばならない」という呪縛になり、ますます不健康になってしまおうという悪循環があるのだろうと思います。

病気の定義はある。しかし、健康という定義は存在しない。

南里 本の中には運動を続けさせる方法がかなり詳しく書かれています。半年が一つの目安のようですが、このくらい続けられると、喜びを感じ始めるといことですか。

熊谷 一つは運動すること自体に楽しみがあり、そこそが継続性のとても大きな源泉です。加えて体重が減り、血圧が下がる。私はこれは副

次的な効果だと思うのですが、二次的な結果であってもかなり継続性が強化されます。重要なのは主体的に取り組めるかどうか。また、健康が目的といっても、その健康という概念が実は存在しない。概念的にも定義できないということも知っていてほしいことです。

南里 そうなのです。

熊谷 病気はきちんと定義されています。一方、健康は、病気の相対的な概念で、その定義は数多く存在します。曖昧にされている部分です。

だから、私は最近、健康という言葉はあまり使わないようにしようと思っているのです。それよりも直接的に「身体運動しよう」「スポーツをしよう」というところにエネルギーをかけることが大切。スポーツすること、からだを動かすこと、おいしく食べることといった喜びを指導することが、指導の本質だと思っています。それを手段として使ってしまうと呪縛になります。昨今の風潮がそうですね。だから、メタボリックシンドロームの人は個人の責任であるとか、生活習慣が悪いからと指摘されますが、私はそうではないと思っています。彼らは社会環境の影響を強く受けている可能性があるから

です。それを言ってしまうと、個人の抑制力を緩めてしまうのですが、そういう部分でのおかしさは認識しておく必要性があると思います。事実、社会環境的なアプローチのほうで、多くの人が運動できるという良い例があります。ある会社がノー残業デーを設置したのです。すると何を指示した訳でもないのに、社員が運動するようになり、結果的に検診の結果が良くなった。個人への働きかけには、限界がありますが、これなどは社会環境に働きかけることによる素晴らしい社会環境に配慮した取り組みですね。

南里 先生はエビデンスも重視されていますね。

熊谷 例えば、メタボリックシンドロームの判定基準値も、女性のウェストサイズは九十cm以上ですが、あれはちょっと現実に合わないというデータがあり、最近では、八十cmくらいが妥当ではないかという報告があります。精度を高めるためにはワンプointのデータではなく、ウェストサイズによってどのくらいの疾病が発現するか、三年、五年と追跡して、どんなウェストだった人がメタボリックシンドロームになっていくか。そういうエビデンスの集積で

基準値の精度を高めていくべきだと思います。

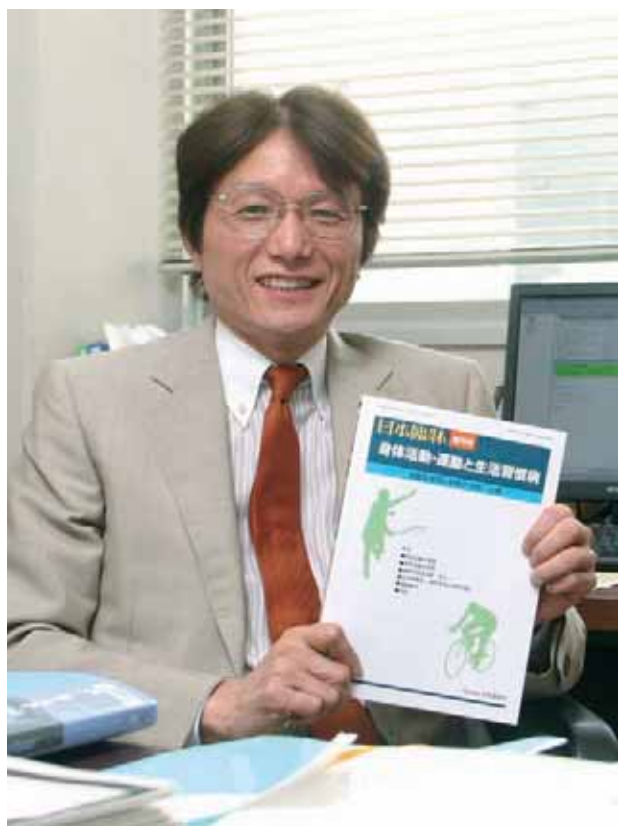
南里 先生のご研究で難しいところは？

熊谷 運動の介入にダブルブラインドができないことです。本当は運動しているかどうか本人にわからないのが研究的には一番望ましいのです。でも、それはできないですよね、行動ですから。例えば、運動の嫌いな人がたまたま運動するグループに入ったら、これはかなりストレスになり、そのデータが本当に正しいのかということになります。だから、そこが難しい。

南里 楽しい瞬間はどんな時ですか。熊谷 私は運動の研究をしていますから、体力依存性あるいは、身体活



前列左より、聞き手の南里准教授と熊谷教授。後列左より、留学生のハイニ（ハンガリー）、パルディ（エジプト）、許君（中国）



FRONT
RUNNER

PROFILE 熊谷 秋三 教授 プロフィール

福岡大学・体育学部体育学科卒業。筑波大学大学院・体育学研究科健康教育学専攻修士課程修了。筑波大学体育センター文部技官。佐賀医科大学医学部地域保健科学講座助手、文部省長期在外研究員としてスウェーデン・ヨテボリ大学医学部へ出張研究、九州大学健康科学センター講師、同センター助教授を経て、2003年より現職。九州大学人間環境学研究院行動システム専攻（兼任）。

ハンガリー共和国・セメルバイス大学体育スポーツ科学部招聘教授として渡航。指導健康心理士、高齢者体力づくり支援士（ドクター）

動量に依存して効果が出るのか、あまり多いと弊害が出るのかとか。それを専門的用語では量反応関係と言いますが、体力とか身体活動量などのくらい不足すると、疾病に至るのか至らないのか。そういった結果がきれいに出了た時は非常に嬉しいですね。人間というものを考えた時、何となくリーズナブルだなと感じるのは、非常に嬉しい瞬間ですね。南里 うつ病など深刻な研究もされていますが、研究室からは明るく、

自由な雰囲気伝わってきます。熊谷 基本的には学生がやりたいことに私が合わせるというのが、私の学生指導のスタンスです。ヘルスサイエンスを扱う私の研究室には看護師、理学療法士、栄養士のほか法学士や本学の農学部の人があり、そのアカデミックバックボーンは非常に多領域にわたっています。彼らのやりたいことはそれぞれのバックグラウンドで違いますし、同じ現象でも違った捉え方をしたりするので、そ

こらあたりを大切にしたいと考えています。私たちは病気になった後の支援を専門的にやるのではなく、軽症でもそこへ至るプロセスがどんな生活習慣や行動によって誘発されるのか。その原因を探り、予防的な対策あるいは、政策の展開につながるべく研究を志向しているので、つい方法論が多岐にわたります。それはやっていて面白い代わり、様々な専門家といかにコミュニケーションできるかをいつも念頭に置かねばなりません。

せん。この事は、これからの若い方々にもアドバイスしたいことで、異領域の人たちが同じ目的に向かって研究したり、人を指導していく時の鍵になるのは共通言語を用いるということです。少しでも早く門前の小僧程度の知識、技術を獲得して、学問、医療行政、そういうものの垣根を打ち破るような人材になってほしい。また、どんな専門家に相手しても自律性を持って自分の専門性に自信を持てるような人になってほしいと思います。南里 今後の研究の展開についてお聞かせください。

熊谷 個人的な研究のほかに一つ、私自身の社会貢献、学問的な社会貢献というところで人材育成に少しエネルギーを注ぎたいと思っています。一つの大きなきっかけとして、五年以内を目標に九州大学に身体運動学の専攻ができるくらい多領域の人が集まるようなものを作りたいのと、現在、体育スポーツ指導に特化した国家試験がないので、厚生労働省が認定資格の健康運動指導士のような指導資格を国家試験にする方向に持っていけるようアカデミックな構築をしたい。後者は今後十年内の課題にしたいと思っています。

躍動

学生たちの活躍

「躍動・学生たちの活躍」では、学生のサークル活動にスポットライトを当てて、その活動を紹介していきます。



夕暮れの伊都キャンパス。学生も少なくなったキャンパスに学生の声が響き、周りの風景にとけ込んで消えていきます。
その声こそ、九州大学応援団が発する九大へのエールです。
今回、試合会場や大学イベントで九大人にエールを送る応援団の練習を取材し九州大学応援団第四十四代団長の土井孝徳さん（経済学部三年）と団員の吉田健志さん（工学部二年）にお話を伺いました。

九州大学応援団

— まずは応援団の活動内容について聞かせてください。

土井さん 四月の九州六大学野球春季リーグ戦の応援で年間の活動がスタートします。八月には七大戦^①の応援、秋になると九州六大学野球秋季リーグ戦、十二月には島原学生駅伝、そして、三月には準硬式野球の応援を行います。これが年間のおまかなスケジュールです。ほかに、入学式などのイベントで演舞を披露することもありますが、今年は博多どんたくのパレードにも参加しましたが、やはり主な活動は各種競技会での応援です。

— 現在の部員数や練習について聞かせてください。

土井さん 現在、部員は九名です。練習は週二回、伊都キャンパスの体育館前のピロティで行っています。— 部員が九名というのは、他の大

学と比べてどうですか。

土井さん 少ないです。それでもまだ、今年は四名入部したので昨年よりは良いのですが、応援の現場では、団旗を掲げたりするのに人数が必要です。もっと多くの方に入部していただきたいですね。

— よく、応援団は無理矢理に入部させられるとか、入部すると先輩後輩の関係が厳しいとか聞きますが、どうでしょう？

土井さん 確かにそのように思われているのですが、全く、そういうことはありません。とはいうものの、四月に新入生を勧誘する時は、そういう応援団のイメージがあるので、最初は普通のサークルを装って勧誘します。それで、これは入部の脈があるなと思って、最後の最後に「実は応援団です」ってカミングアウトしますが、その瞬間、スーッと波が





九州大学応援団第4代団長の
土井孝徳さん

引くように、学生に引かれてしまいます。俗にいう「ドン引き」というやつですよ。ホント見事な位に(笑)。やっぱり、まだまだ、応援団にはそのようなイメージがあるのかも知れませんが、普段は普通の九大学生ですよ。

— ということですが、吉田さんの入部の場合はどうだったのですか。

吉田さん 私の場合は、とあるイベントである上級生と知り合いになったのですが、その上級生がたまたま、応援団で、それで入部しました。

確かに練習は厳しいですけど、それは、どの部でも同じことだと思えます。先輩後輩の関係も、不条理な上下関係なんてありませんよ。普段は見てのとりの普通の先輩後輩の関係です。それに応援団ならではの喜びもあります。

— というのは何でしょう。

土井さん やっぱり、一生懸命に応

援して、勝利の瞬間に立ち会えることです。九大は他の大学と違ってスポーツ推薦ありませんし、普段真面目に勉強して練習している九大学生がチーム一丸となって勝利した時の喜びは最高です。逆に負けたときなど、選手と同じくらいにへこんでしまいますね。

— と語る土井さんは、高校時代から応援団所属という、生粋の応援団員。一見、どこにでもいる九大学生ですが、やはりそこは九大一の九大サポーターである応援団長。最近の野球部の勝利ゲームや応援団について語る目はいきいきと輝いています。そんな土井さんに応援団のPRを兼ねて、これからの活動について語っていただきました。

土井さん やっぱり、野球をはじめとした試合会場に足を運んで欲しいですね。そして、現役九大学生やOB OGの方と一緒に応援し、勝利の喜



団員の吉田健志さん

びを選手と共に分かち合いたいですね。

もちろん随時、団員も募集中です。まだまだ、応援団は厳しいとか大変だとかきついイメージがありますけど、応援の時には冷静に試合を見る心と熱く盛り上がる魂を感じることが出来ます。

それに入学式で演舞を行っている時など、皆さんの注目の中、声を張り上げてエールを送る。最高に気持ちいい気分ですよ。

インタビュを終え、向かったのは、伊都キャンパス体育館前のピロティ。学ランを着た団員が整列する中、土井さんが袴に高下駄姿で颯爽と登場します。

「団旗よーいッ!!」の声と共にワインカラーの大きな応援団旗が蒼く澄んだ伊都の空に舞い上がります。インタビュ時のリラックスした雰囲気に変わって、練習場は心地よい緊張感に包まれます。そこからはひたすら、演舞、演舞、声出し、声出し・・・。

伊都キャンパスに響く太鼓と応援歌「松原に」。この応援歌はいつの日か試合会場で九大を勝利に導く大きな歓喜の歌となるのです。



(1) 全国七大学総合体育大会の略…毎年夏に、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学の七大学が合同で開催する体育大会。参加大学に所属する運動部が参加して順位を付ける。競技種目は四十競技。

ISS滞在の若田宇宙飛行士とライブ交信



九州大学から送られたオリジナルポロシャツを着て登場した若田宇宙飛行士（バックは県アンビシャスから送られた旗）

平成三十一年三月二十六日（木）、九州大学医学部百年講堂において、三月十六日（月）にアメリカ合衆国フロリダ州のケネディ宇宙センターからスペースシャトル・ディスカバリー号で国際宇宙ステーション（ISS）に向けて飛び立ち、ISSで活動を開始した本学OBの宇宙飛行士若田光一氏（大学院工学研究科修了）と直接対話をするライブ交信「若田光一宇宙飛行士からエール！ライブ交信と宇宙授業」を、本学、福岡県、（独）宇宙航空研究開発機構（JAXA）、（財）日本宇宙少年団の四機関で開催しました。

まず主催者を代表して、麻生渡福岡県知事と本学の村上敬宜理事・副学長が挨拶し、続いて福岡県出身の漫画家で日本宇宙少年団の理事長でもある松本零士氏から寄せられたビデオメッセージが上映されました。

続いて、「若田宇宙飛行士のミッション」について、JAXA有人宇宙環境利用ミッション本部事業推進部の福田義也専事から映像を使用しながらシャトルの打ち上げからISSでの活動内容など今回のミッションの解説があ

り、次いで（財）日本宇宙少年団の的川泰宣副本部長から、「宇宙への挑戦」と題した宇宙授業が行われました。

午前九時過ぎにISSに滞在中の若田宇宙飛行士と中継がつながり、ライブ交信が始まりました。ISSの「きぼう」日本実験棟にいる若田宇宙飛行士の映像が会場のスクリーンに映し出されると、約四五〇名の参加者から一斉に歓声が上がりました。

質問者として選ばれた日本宇宙少年団福岡分団の清水魁偉（しみずかい）君、舞松原アンビシャス広場の長友勇樹（ながともゆうき）君、本学工学部の石井紀子（いしいのりこ）さんの三人から質問が出されました。

長友君からの「宇宙から地球を見て思ったことは何ですか？」という問いに若田宇宙飛行士は「宇宙へと人類の活動領域を広げると同時に、素晴らしい地球の環境を守っていかねばいけないということ、美しい青い地球を見ながら感じます。」と答えるなど、一つ一つの質問に対し、会場に訪れた子供達にも分かりやすく丁寧に答えていました。

ライブ交信の最後には、若田宇宙飛行士から「会場に集まってくれた皆さんありがとうございます。将来皆さんのうちから宇宙を舞台に頑張ってくれる人が出てきてくれればと思っています。夢、そして目標をはっきりと持って皆さん頑張ってください。フライト後には福岡に行って皆さんに体験をお話しできればと思っています。」とメッセージが送られました。



九大生を代表して質問した石井紀子さんと国際宇宙ステーションで若田宇宙飛行士が着用した同じタイプのポロシャツ

「九州大学まなびたい」が博多どんたくに初参加

「颯爽と初登場」

平成二十一年五月三日（日）、本学の学生・卒業生・教職員で構成する「九州大学まなびたい」が、福岡市民の伝統的な祭りである博多どんたく港まつりのパレードに参加しました。

これは二〇一一年に百周年を迎える九州大学を市民の皆様にもっと知っていただくとともに、市民の皆様とともに祭りを盛り上げようと企画したもので、今回、大学として初めて参加することになりました。

午後四時三分、水田理事ほか女性スタッフが持つ「九州大学まなびたい」と大きく記された横断幕を先頭に、応援団を始めとする学生サークル、教職員、留学生ら総勢二〇〇名によるパレードがスタートしました。福岡の中心部を行進する「まなびたい」は、芸術工学研究院の佐藤優教授・伊原久裕准教授がデザインした揃いのUIカラーの法被や三色のオリジナルTシャツを身にまとい、UIカラーのユニークな帽子をかぶり堂々と行進しました。

沿道を埋めた多くの観客からは、「さすが、九大だ」、「九大がんばれ」

の声が聞かれ、約三十分のパレードは大いに盛り上がりました。

伝統の田島寮「樽神輿」も復活

そして今回の「まなびたい」一つの目玉が、本年三月末で閉寮となった田島寮に長年受け継がれてきた伝統行事「樽神輿」の復活でした。この日のために、OBも含めた総勢約五十名の旧寮生が集まり、伝統の赤ふんどしを身に付け、練り歩く姿は、今回のパレードでもひととき注目を浴びており、観客からも大きな声援が飛びました。

また、翌日の五月四日（月）には、有川総長がVIPパレードに参加するとともに、芸術工学部の学生による「九州大学大橋キャンパス芸工祭どんたく隊」が参加し、こちらも沿道から盛んな声援を受けました。



パレード全景



樽神輿

理学院の和田特任教授と矢原教授が 「みどりの学術賞」を受賞



みどりの式典で、麻生総理とともに記念写真におさまる和田特任教授（向かって左）と矢原教授（向かって右）

写真：内閣府提供

平成二十一年度（第三回）「みどりの学術賞」の受賞者として、本学理学院の和田正三特任教授と矢原徹一教授が選ばれました。

「みどりの学術賞」は、国内において植物、森林、緑地、造園、自然保護等に係る研究、技術の開発その他の「みどり」に関する学術上の顕著な功績のあった個人に対し、その功績を讃えることにより「みどり」の大切さについて広く国民の理解を深めることを目的とし、内閣総理大臣が授与するものです。

和田特任教授は、光生物学の分野で、光に反応する植物の仕組みを明らかにしたこと、矢原教授は、進化生物学の分野で、植物がその繁殖戦略によって種の多様性を生み出していることを明らかにしたこと（いずれも選考委員会委員長コメント）などが評価されたものです。

和田特任教授、矢原教授は、四月二十四日（金）天皇、皇后両陛下のご出席のもと開催された「みどりの式典」において、麻生総理大臣から賞を授与されました。

和田特任教授、矢原教授から次のようなコメントをいただきました。

【和田特任教授】

天皇皇后両陛下のご臨席のもとで「みどりの学術賞」を総理大臣から直接頂けたことはこの上ない光栄なことでした。これもひとえに、共に実験をしてくれた研究室のメンバーや共同研究者の方々、研究費や研究の場を提供して下さった方々、研究者のわがまを認めてくれた家族など、私を取り巻くすべての関係者と、研究をしていて偶然行き当たった幸運等々のおかげです。今回の受賞は、研究テーマは何であれ、努力をすれば報いられる、という証でしょう。いかなる課題にも挑戦できる自由と、それが保証される研究費のある時代に戻って欲しいと願っています。

【矢原教授】

「みどりの学術賞」を、研究者としても指導者としても尊敬している和田先生と共に受賞できたことを大変光榮に思っています。このたびの受賞は、私一人の貢献ではなく、これまで共に研究を行ってきた多くの研究者や、調査員、保全事業協力者の皆さんのお力添えのおかげだと思っています。天皇皇后両陛下にもご臨席いただいた受賞

式を通じて、このような賞を受けた責任をひしひしと感じております。これからも、自分の仕事に対するこだわりを維持しつつも、志を共有できる方々との協働を通じて、生物多様性保全や自然再生に少しでも貢献していきたいと思えます。

和田特任教授は、これより先に、ドイツのフンボルト財団によるHumboldt Research Awardの受賞者にもなり、三月二十八日にドイツで行われた伝達式で賞状を授与されました。

今回は、世界中で四十二名が受賞し、そのうち日本の大学からは、東大、京大、阪大、九大から各一名ずつが受賞者となりました。



フンボルト財団のPresident Helmut Schwars 教授から賞状を受ける和田特任教授

筒井哲夫名誉教授と高樹のぶ子特任教授が 紫綬褒章を受章

平成二十一年四月二十八日（火）、平成二十一年春の紫綬褒章受章者が発表されました。本学関係者では、筒井哲夫名誉教授と、アジア総合政策センターの高樹のぶ子特任教授が、受章され、五月十九日（火）に都内のホテルで行われた伝達式で塩谷文部科学大臣から褒章を受けられました。

紫綬褒章は、学術、芸術、技術開発等の分野の功労者を対象とするもので、筒井哲夫名誉教授は、長年にわたって、有機化学・有機材料科学の教育、研究に努め、有機エレクトロルミネッセンス（EL）の開発研究など有機エレクトロニクス分野の先駆的な研究を通じて同分野の発展に



筒井哲夫名誉教授

大きく貢献したことが、また、高樹のぶ子特任教授は、小説家として多くの優れた作品を発表し、文学界の発展に寄与したことが評価されたものです。高樹のぶ子特任教授は、平成十七年からは、本学アジア総合政策センターの特任教授として、アジアの作家との交流などを通じ「アジアに浸る（soaked）」ことで感じた世界を様々な方法で発信するマルチイベント、SIA（Soaked in Asia）を実施するなど、多彩な活動を継続中です（SIAについては、<http://asia.kyushu-u.ac.jp/home/sia/main.html>をご覧ください）。



アジア総合政策センターの高樹のぶ子特任教授

平成二十一年度 科学技術分野における 文部科学大臣表彰 若手科学者賞

SSP特任准教授三名を含む五名が受賞

科学技術に関する研究開発等において顕著な成果を収めた者の功績を讃えるために文部科学省が毎年表彰している「科学技術分野における文部科学大臣表彰」は、本学より毎年継続して受賞者がでております。特に本年度注目すべきは科学技術振興調整費によるテニユアトラック制度導入推進事業の一環として本学が推進している「次世代研究スーパースター養成プログラム（SSP）」で活躍中の三名のSSP特任准教授（石谷太、稲葉謙次、鈴木淳史ともに生体防御医学研究所）が、四十歳未満の若手研究者を対象とする若手科学者賞を揃って受賞したことです。

名が同賞を受賞しておりますが、本学の三名の受賞は特に優れた成果として注目されています。

三名はともに自薦で大学推薦候補に名乗りをあげており、自らの研究に大きな自信を持ち、且つ第三者からも高く評価される研究者といえます。科学技術振興調整費の同事業における全国の三〇〇名を超えるテニユアトラック教員のうち、本年度は七



左から鈴木、稲葉、石谷（以上生体防御医学研究所SSP特任准教授）、石原亨（システムLSI研究センター准教授）、目野主税（医学研究院教授）

開学記念講演会で 建築家の安藤忠雄氏が講演



講演を行う安藤忠雄氏

ついて、ユーモアを交えた語り口で話されました。

安藤氏は「モノも金も豊かになった日本人に今必要なのは想像力」、また、講演会に参加した大学生をはじめとする若い世代に対し、「自分の可能性を信じて自分の道をつくり、次の世代の子供達に素晴らしい地球を残していきましょう」と語りかけ、市民の方々と満員の会場は拍手に包まれました。

講演会終了後には、ロビーにて安藤氏のサイン会も開かれ、講演に興奮冷めやらぬ多くの人々が長い列をなしていました。

平成二十一年五月八日（金）、九州大学創立九十八周年記念講演会が、アクロス福岡シンフォニーホールで開催されました。

また、五月十一日（月）には平成二十一年度開学記念式典が五十周年記念講堂（箱崎キャンパス）で開催され、式典では、学生への奨学金支援や資料の寄贈などに携わってきた一団体四人の方々への感謝状授与、名誉教授称号記授与なども行われました。

安藤氏は、建築家としての原点となった地元大阪での初期の活動から、代表作にまつわる知られざるエピソード、そして現在から今後の活動に

塩谷文部科学大臣が 伊都キャンパスを視察

平成二十一年五月十六日（土）、塩谷文部科学大臣が伊都キャンパスを視察されました。

塩谷文部科学大臣ら一行は、まず、伊都キャンパス内にある（独）産業技術総合研究所の「水素材料先端科



センターゾーンの銘板前での塩谷大臣と有川総長



村上理事から説明を受ける塩谷大臣

学研究センターを訪れ、本学と産業技術総合研究所が共同で行っている世界最先端の水素研究について、水素研究の第一人者でもある同センター長の村上理事（研究企画担当）から、詳しい説明を受けながら、施設を視察されました。

その後、本年四月にオープンしたセンターゾーンに場所を移し、今泉理事（施設環境担当）から伊都キャンパスの概要や、移転の状況などについて説明を受けた大臣はその後、有川総長らと共に学部一、二年生の学習の場である全学教育関連施設の視察を行い、約二時間の行程を終えました。



世界のキャンパス

ベルギー



交換留学先 Katholieke Universiteit Leuven

レウヴェン・カトリック大学

21世紀プログラム課程 4年 段原 亮治 だんばら りょうじ



写真上／2月に寮で行われた僕の誕生日パーティーでの模様です。

写真下／ベルギー人の友達の実家でイースターホリデーの朝食を楽しんでいるところです。

私はレウヴェン・カトリック大学で交換留学生として二〇〇八年二月～十二月の約半年間を過ごしました。

まず授業についてですが、最初のセメスターではこちらならではの分野を勉強しようと思う、EUの職員でもある教授のヨーロッパ統合に関する授業や、医療倫理（※ベルギーは安楽死容認国）、シエイクスピア、古代哲学、あえて仏教などに挑戦しました。

しかし、これらに関する背景知識がなかったため、とても難しく感じたのですが、友達とグループプレゼンの準備をしたり、二十時間かけて難解な本を読破したりと、周りの支えがあったので、なんとかやり抜くことができたのだと思います。

次に、この街での生活、いや、ベルギー生活と密接な関係にある「ビール」についてです。最もスタンダードなベルギービールであるステラの工場がレウヴェンにあるため、ビールの心地よい香りか風に乗ってやってきます。そんな日にはビールを飲まないわけにはいかず、私たちの足はバーへと向かいます。そこで主な根城となっているので大学が管理している学部ごとにある「ファックバー」(Faculty Barの略)や、世界一長いと言われているビアガーデン「オウデマルクト」です。こうして私たちはベルギービールの嗜みを深めていくと共に、友達との仲も深めていきます。

さて、実際にどのような学生と生活を共にするかというと、例えば私の寮には日本人、アメリカ人、中国人、スペイン人、ポーランド人、ベルギー人がそれぞれ四、五人ずつ、そして寮長のコソボ人という国際色豊かなメンバーが住んでいます。さらに、近くの寮に住んでいる留学生とも頻りにパーティーを共同で行うため、世界中からやってきている様々な学生と出会う機会があります。

最後に、この街の魅力を一言で表現するならば、それはズバリ「かわいい」です。大学の建物や教会以外はほとんど大きな建物もなく、街の中には二車線以上の道路もありません。自転車も三十分ほどの規模で、至る所で緑を目にすることもできます。治安もとてもよく、大きな事件など聞いたことがありません。

そんな「かわいい」レウヴェンは今日も相変わらず平和です。



少し郊外にあるキャンパスです。ここで授業はありませんが、たまに遊びに行きます。



街のど真ん中にある市庁舎で、授業に行くときに通ったりする場所です。

大学情報

このレウヴェン・カトリック大学は十五世紀に設立されたとても古い大学で、今なおレトロな雰囲気を感じ出している校舎が街中に点在しています。総学生数約三万人のうち、十%以上がベルギー国籍外の学生であるため、オランダ語圏にありながら、英語での授業も非常に充実しており、先生方がとても熱心であることも知られています。

*交換留学について詳しく知りたい方は、「九大生のための海外留学情報」(<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/>)をご覧ください。過去の交換留学生による報告書も大学毎にたくさん掲載しています。



告知板

建入へて決意

ヒヤノパーク農産

つぎへ

ハラスメントの相談件数等

平成二十年度の九州大学におけるハラスメントの相談件数等は、次のとおりでした。

相談窓口の相談員に
相談があった件数は、
20 件です。

そのうち正式な苦情
申立てのあった件数は、
6 件です。

懲戒処分を行った事案はありません。

セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントなど人としての尊厳を侵害する行為は、決して許されません。

一人一人がお互いの人格を尊重するとともに、「相手の嫌がることは言わない、行わない」という人としてのマナーを守りましょう。

健全で快適なキャンパス環境を実現するため、九州大学は、これらの問題に対して、毅然とした態度で臨みます。

ハラスメント相談員

本学ではハラスメントに関する相談や苦情の申出に対応するため、学内に相談員を配置しています。相談員の氏名や手続きの流れ等は以下のホームページに掲載しています。

TOPV総合情報Vハラスメントの防止・対策

なお、相談者の所属部局等などに関係なく、どの相談員にでも相談することができます。相談したことによるあなたのプライバシーは必ず守られますので、一人で悩まず、まずは誰かに相談してみてください。

ハラスメント防止

啓発のための資料を

ホームページに掲載しています

ハラスメントに関する防止啓発のための冊子「心の傷 あなたには見えますか？」の改訂版を学生や教職員の皆さんに配布し、ホームページにも掲載しています。ハラスメントに関するQ&Aなどをわかりやすく記載していますので、加害者にならないためにも、また、被害者にならないためにもぜひ参考にしてください。

(総務部職場環境室)



URL <http://www.kyushu-u.ac.jp/university/sekuhara/index.html>

九州大学応用力学研究所RIAMフォーラム2009

【日時】2009年6月12日（金）9:30～18:00

【場所】九州大学筑紫地区 総合研究棟（C-CUBE）1F 筑紫ホール

プログラム	
9:30～10:00	応用力学研究所の現状と次期中期計画および全国共同利用の現状
10:00～12:05	応用力学研究所および全国共同利用研究の最近の成果から
特別講演 飯吉厚夫（中部大学総長）	
13:30～14:30	核融合研究50年のあゆみ
応用力学研究所における核融合研究の現状と次期中期計画	
14:40～15:30	核融合プラズマ・特定研究成果報告（I）
15:30～16:20	核融合プラズマ・特定研究成果報告（II）
16:20～17:20	QUEST計画概要
17:20～18:00	総合討論

全国共同利用研究所としての応用力学研究所の昨年一年間の研究成果を報告するために、研究報告会「RIAMフォーラム2009」を六月十二日（金）に、総合研究棟（筑紫地区）で開催します。

内容は、応用力学研究所の研究活動の概要、主な研究成果、共同研究の成果についての報告、今年は応用力学研究所の研究の柱のひとつである核融合・プラズマ力学にスポットをあて、特別セッションとして「応用力学研究所における核融合研究の現状と次期中期計画」を開催します。また一般の聴衆を対象とした特別講演（プラズマ・核融合学会九州・沖縄・山口支部後援市民講座）「核融合研究五十年のあゆみ」（講演者飯吉厚夫中部大学総長）を企画しております。

応用力学研究所では、国内外の共同研究者とともに、プラズマ長時間制御・核融合炉材料の開発・基礎プラズマ力学の解明に関する研究に取り組んでいます。今回のRIAMフォーラムでは、核融合・プラズマ力学に関して、今、何がわかっていて、今後、国際熱核融合実験炉ITERやその先を見据えてどのような研究が必要か、最近の研究成果に基づいた議論を行います。ご多用中恐れ入りますが、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】九州大学筑紫地区事務部庶務課 TEL（092）583-7504
ホームページ <http://www.riam.kyushu-u.ac.jp>

九州大学フィルハーモニーオーケストラ ～第182回定期演奏会(100周年記念演奏会)のお知らせ～

【日時】2009年6月26日（金）19時開演(18時開場)

【場所】アクロス福岡シンフォニーホール

【曲目】ラロ/チェロ協奏曲、マーラー/交響曲第5番

【指揮】堤俊作

【チェロ独奏】林峰男

【入場料】全席自由1000円

チケットぴあ（TEL0570-02-9999）、
ファミリーマートにて発売中（Pコード325-627）

【お問い合わせ先】080-1741-5964(広報 前川)

九大フィルハーモニーオーケストラは今年創立一〇〇周年を迎えました。キャンパス移動に伴い、練習場所の確保に苦労しているところですが、演奏会を成功させるべく日々練習に励んでいます。皆様の御来場を部員一同心よりお待ちしております。

九大フィルハーモニーオーケストラから一言

新聞で報道された 九州大学

平成二十一年
二月～三月

二月

内定取り消し千人超 大学も対抗
九大先駆け 補償金を要求
(西日本2/1)

体へ負担小さい治療法 放射線・内視鏡が普及
内藤誠二大学院医学研究教授
(読売2/1)

「人を育てる信念持て」 教員資格目指す九大
生に最終講義 定年退職する小田垣孝教授
(西日本2/1)

実験生物 国あげて保存 研究者に提供
競争力強化へ アサガオ(九州大)
(朝日2/2)

文化短信 九州大学アジア理解講座
「アジアを牽革する社会情報基盤」バンングラ
デシユの挑戦
(西日本2/4)

九州の一揆を考察 九大に宮崎准教授が出版
農民社会の実像に迫る
(佐賀2/4)

本格連携を推進へ 九大と県農林水産
部が交流協議会
(大分合同2/5)

九州大学工学研究院長に日野氏
(西日本2/5)

不況で増えるはず！ 九大なぜか急減
キャンパス移転影響？
(毎日2/5)

九大生が講師の塾開講 前原市の十二小中学
校 五月から地域と連携 学力アップへ
(毎日2/5)

高樹のぶ子の見た恋愛の力
愛が切り開く地球 人を初期化する恋愛
不安な時代に、より熱く
(山口2/5)

太宰府天満宮 クスノキ養生作業
空洞部分を三次元画像で診断
九州大熱帯農学研究センター 矢幡久教授
(読売2/6)

九大など六大学連携 タイ、ドイツの大学と
国内からは三大学参加 共同で農学教育推進
(毎日2/6)

絶滅危惧 文化図鑑十三 硬派
「やさしさ」の陰で 九州大学応援団
(読売2/6)

産後うつケアの輪 九大病院
問診で早期発見
(朝日2/6)

九大工学部施設 産業遺産群に選定
「活用につながる」 専門家が喜びの声
(西日本2/7)

抗がんたんばく質立証 細胞にダメージ少な
く 副作用抑える治療期待 北田栄大学院理
学研究助成
(読売2/7)

電動ベビーベッド 泣き声感知 揺れ調整
来月販売・レンタル開始 九大助教ら
(読売2/7)

母校・九大特製ボロシャツ 若田さんと宇宙
へ(公式記念品) シャトルに持ち込み
(西日本2/8)

まちかど【別府市】九州大学別府先進医療
センター市民公開講座
(大分合同2/8)

市民公開講座「患者さん考える明日への医
療」 九州大病院高度先端医療センター
(西日本2/8)

九大退職教授が講義 本社で開幕
(読売2/8)

九大伊都キャンパス 学研都市へ 整備加速
大型店も進出 駅周辺区画整理進捗六十五%
(読売2/8)

九大、多彩な手法駆使 学内で開発研究
住友電工・日産化学と
(日刊エ2/10)

印刷でメモリー作成 日産化学と九大
食品タグ、安価に代替
(日経産業2/10)

九大六本松キャンパス 引越越し作業始まる
(西日本2/10)

「患者さん考える明日への医療」
九州大病院高度先端医療センター
(日経2/10)

九州・ブランドデザイン展 旧大企画
博多織エコバッグなど
(西日本2/11)

九大退職教授(理論物理学)
小田垣孝教授(理論物理学)
(読売2/11)

九大キャンパス移転 六本松の八十八年つづ
る「記憶後世に」記念誌出版「青春群像
さようなら六本松」
(西日本2/11)

3/3、11、13、14、21、22、
23、24、25、26、27、28、29、30、31

高学歴ワーキングプア 博士の就職難
深刻 九州大学大学院 桜井玄さん
(西日本2/12)

地球の周り ごみだらけ
花田俊也・九州大准教授
(読売2/12)

ガザの実情報告 九大で留学生ら意見交換
(読売2/12)

宇宙「み」深刻化「連携反応の恐れ」指摘
八坂哲雄九州大名誉教授
(西日本2/13)

月のでこぼこ 高低差二万メートル「かが
や」観測 九大の衛星も重力分析で成果
(西日本2/13)

「血糖値下げる細胞の源を発見」
九大、糖尿病根本治療に道 稲田明理医学研
究院特任准教授のグループ
(河北新報・信濃毎日・中国・佐賀・大分合同・南海日日
愛媛・北海道・北日本・福岡民報・徳島・東京・長崎
中日・中国・山口・西日本・神戸・四国・山陽・山形
山陰中央・熊本日日・京都・岩手日報・東奥日報・千
葉日報・伊勢2/13、14、16、18、20)

国際ビジネスシンポジウム
「東アジアのビジネス連携と人材育成」
九大アジア総合政策センター
(西日本2/13)

元気応援隊！ 平和な時代の武士 研究
高野信治 九州大教授
(佐賀2/13)

九大生の思い出 街の人と共有
撮影・聞き書きDVDに
(朝日・読売2/14、3/12)

九大キャンパス移転 学生有志恩返し企画
来月二十一日 周辺三十店に感謝伝える
(西日本2/14)

どろろの九大跡地 四校区協議会が視察会
(読売2/14)

健康プラス 冬の入浴 脱衣室暖めて
総合理工学研究院 板原裕教授
(読売2/14)

十九日福岡コンテンツマーケット
最先端ゲームなど展示 九州大
(読売2/14)

月周回「かぐや」の子衛星「おきな」を開発
した九州大学理学研究院助教 並木則行
(西日本2/15)

九大「六本松」跡地 将来像は来月結論
コンセプト案方針
(朝日・西日本2/15)

笑いで元気に 福岡市の通所授産施設
九大落研が古典披露
(西日本2/15)

六本松お袋の味 あなたへ
九大生と三十三年 迷う移転後
(朝日2/15)

仮想儀礼 上・下 篠田節子著 瞑想から暴
走する集団 九州大教授 森茂太郎
(西日本2/15)

肌保湿成分「セラミド」 分解酵素の構造解
明 阪大・九大 アトピー治療に道
(日経2/16)

九大移転 六本松に別れの合奏
吹奏楽団 現役・卒業生が十五曲
(西日本2/16)

日本外科学会 市民公開講座
九州大学臨床・腫瘍外科
(読売2/17)

九大退職教授 公開講義
矢幡久教授(森林生態学)
(読売2/18)

留学生積極受け入れ 国際的人材を育成
九州大学大学院生 水野良美さん
(日経2/18)

九州大学総合研究博物館
七百五十万点に及ぶ学術標本
(科学2/18、26)

正常部位ダメージ少なく ガン細胞を狙い撃
ち 微生物の毒素活用 九大など治療技術
(科学2/20)

デジタルずらり「福岡コンテンツマーケット
二〇〇九」 九州大 データ放送出展
(朝日2/20)

食と農の距離縮めたい 農家招き学生がイベ
ント あす九大箱崎キャンパス
(西日本2/21)

若田宇宙飛行士へ質問募る
九州大学でライブ配信
(朝日・西日本2/21、23)

現場から 次世代エネルギー普及 大規模実
証 前原で進行中 九州大伊都キャンパス
(読売2/21)

新型インフルエンザ 九大が対策本部設置
学生・教職員にマスク配布へ
(読売2/21)

医師と芸能二足のわらじ きたやまおさむが
高石ともやと共演 九州大教授
(朝日2/23)

八十八年の記憶
「九大六本松」移転①⑥
(西日本2/21、22、23、24、25、26)

延岡市出身九大名誉教授 井上尚英さん
タレントたけしさんと対談
(毎日2/23)

高木のお子著「甘苦上海Ⅰ 夏から秋へ」
来月十日発売
(日経2/23)

九大伊都に下宿案内書 物件紹介生活支援も
学生情報センター あすオープン
(西日本2/24)

国公立大入試 二次スタート 九大など
(朝日・西日本2/25)

九大百年思い出描く
東区吉川幸作さんが作品集
(西日本2/25、26)

九大退職教授 公開講義
有馬孝教授(日本近現代史)
(読売2/25)

フィリピン人看護師・介護福祉士
日本政府は施設側に丸投げ
平野裕子・九州大学大学院准教授
(朝日2/26)

九州大学法学部八十五周年・文学部六十周年
記念 九大文学部・朝日カルチャー提携講座
(朝日2/26)

自然の息づかい体感
「MIND IN SOUND」
ラン百録 発する波動を音に 九州大学
(西日本2/26、3/7)

九大の志願倍率 昨年下回る二・五倍
国公立大二試試験
(読売2/26)

第七回SIAIDAY
「高樹のぶ子と愛するタイ」
(朝日・読売2/27)

食糧自給・農業：農家の本音を聞く
あす福岡でシンポ 佐藤剛史農学研究院助教
(朝日・西日本2/27)

九大入試補足説明周知できず
「九州の西日本」 おかず持ち寄り皆で昼
食 料理の大変さ、面白さ知る 九州大
(佐賀2/27)

ブックマーク 独自の視点で百姓一揆検証
「九州の一揆 打ちこわし」 宮崎克則九州
大准教授著
(読売2/27、3/8)

第六回日本乳癌学会九州地方会
医学部百年講堂で開催
(読売2/27、3/4)

内定取り消し 九州で百十八人
卒業間近 大学が救済本腰 九州大学
(西日本2/28)

九大園学研究院長に吉浦氏
(西日本2/28)

三月

「九州大学風景画作品集」 出版記念の祝賀会
(西日本3/1)

理系白書二〇〇九挑戦のとき⑤ 杉原知久
九州大特任准教授「ヒト型ロボ、作りたい」
(毎日3/1、4)

九州大学音楽祭二〇〇九
(読売3/1)

福岡からアジアへ、環境・エネルギー問題に
挑む！ 文部科学省戦略的連携支援事業
(平成二十一年度～二十二年度)
(西日本3/1)

うつ病・虐待の防止にも 産後ケアで安心子
育て 吉田敬子病院特任准教授
(読売3/3)

盛んなゲーム産業感じて
人気ソフト制作者 講演や討論 九州大学
(西日本3/3)

九大中心に国際産学官連携
福岡市とも交流 オランダとの連携
(西日本 3/4)

「九州大の移転」考えよう
八日福岡市でまちづくりシンポ
(西日本 読売 毎日 3/4、7、9)

九大退職教授 公開講義
吉村忠教授(神経生理学)
(読売 3/4)

E5細胞で立体構造体 九州大病院が作製
形自由、再生医療に応用へ
(西日本 朝日 毎日 読売 日経産業 日刊工 長崎
山口、大分合同 3/5)

さようなら六本松 九大移転
(読売 3/5、6、8、9、12、13、22、24、28、
29)

九大文学部・朝日カルチャー提携講座
「古今東西 あの時この世」
(朝日 3/5、19)

アルツハイマー早期発見へ
九大が専門ドック
(西日本 毎日 読売 朝日 3/6)

六本松キャンパス閉鎖
九大フイル有志が八日に記念演奏会
(西日本 3/6)

争点 論考 九州大大学院教授
内田博文氏 制度は破綻、廃止求む
(西日本 3/6)

九大入試 二次の「化学」 出題ミス
六百五人を正解に
(西日本 朝日 日経 熊本日日 3/7)

アパート紹介など 九大新入生を応援
前原市がまず八・九日
(毎日 3/7)

九州大美術部写真部合同卒展
(読売 西日本 3/5、7)

どんぐりの森大きく育て
九大伊都二百人が植樹祭
(読売 3/7)

第二十二回医療ルネサンス・セミナー
九州大臨床・腫瘍外科
(読売 3/7)

納豆菌で地球を救え 粘りの研究三十年
砂漠緑化へ 九大・原准教授
アルジェリアで試験決定
(西日本 3/7)

週刊九州 六本松、九大生の原点
焼酎と文学見た 作家・片山恭一さん
(毎日 3/8)

原子力発電、私はこう思う
エネルギーに関心を持つ
竹田麻里氏(九州大学工学府修士課程)
(読売 3/8)

研究室を歩く コンテンツ創造を体系化
九大大学院芸術工学研究院 源田悦夫研究室
(読売 3/8)

きょうの健康「うつ病」
神庭重信大大学院医学研究院教授
(日経 朝日 読売 山口 南日本 3/9、10)

キックオフシンポジウム「明日を拓く保健
学」九州大大学院医学研究院保健学科部門
(読売 3/8)

九大前期合格者 女子三割超える
(毎日 読売 日経 朝日 西日本 3/9)

脳卒中患者を長期追跡
福岡で大規模データベース化 九州大病院
(山口 佐賀 熊本日日 3/9、17、24)

九州大学合格おめでとう
十一学部長から祝福の言葉
(読売 3/9)

二〇〇九年 九州大学前期入試を振り返って
合格へのパスポート
(朝日 3/9)

食料問題考えるシンポ 十二日、九大が福岡
市で「コメと魚の将来性」
(西日本 3/10)

九州大学統合新領域学府長に塩次氏
(西日本 3/10)

新入生に「難問」部屋探し
九大伊都キャンパス 物件供給追いつかず
(毎日 西日本 3/10、11)

細胞急増抑える 遺伝子を確認
九大、がん解明に期待
中山敬一先生防衛医学研究所教授
(西日本 佐賀 南日本 日刊工 3/11)

福岡に九州初のモスク
九州大学の留学生「ムスリム学生会」
(朝日 毎日 3/12、15、29)

九大の美術、写真部 卒業記念し
合同展開催 福岡市・天神
(西日本 朝日 3/11、12)

九大六本松跡地「青陵の街」に
有識者委が整備方針
(日経 読売 西日本 毎日 朝日 3/12、13)

六本松で 九大移転 ①⑦、番外編
(朝日 3/12、13、14、15、16、18、19、20、25、
29)

近況往来 「安川家文書」 もとに
敬一郎の政治活動に光
九州大学大学院教授・有馬学さん
(西日本 3/13)

時評 小説 人間の業に触れる感動
松本常彦大学院比較社会文化研究院教授
(読売 3/13)

書評 無限の夢が広がる知の世界 和本の海
へ 豊饒の江戸文化 中野三敏名誉教授
(長野日報 3/13)

東アジアの環境問題解決窓口に
九大、来月に研究拠点
(日経 西日本 朝日 日刊工 山口 熊本日日 3/
14、16、24、27、31)

九州南部桜なき春も 一〇〇年後の開花予測
温暖化が進めば「休眠打破」不十分 伊藤久
徳大学院理学研究院教授
(毎日 3/15)

なんしよと 福岡ブラリぶら
株立ちケヤキに負けるな
矢幡久熱帯農学研究センター教授
(西日本 3/15)

エネルギー新時代 資源の有効活用 重要
上瀬恵理子応用力学研究所准教授
(読売 3/15)

脱・貧困と起業 手助け 福岡市ホームレス
自立支援推進協議会会長 星野裕志さん
(朝日 3/15)

さようなら六本松 九大と私 一〇五
(読売 3/16、17、19、21、23)

医師が患者へ 肺がん勉強会 九大病院で毎週
木曜 基礎から医療情報「難民」生まぬため
(西日本 3/16)

九大・伊都、誘致加速 水素エネ開発拠点に
福岡・前原市「研究団地完成」機に
(日刊工 3/16)

タニングポイント ナビール・アマールさん
九大構内でイスラムの味
(読売 3/16)

広がるインタシンシップ 仕事を理解する好
機に 九州大学総長 有川節夫
(西日本 3/16)

若田さん宇宙へ 笑顔で「体調ばっちり」
母校・九大五十人見守る
(西日本 朝日 読売 毎日 産経 日刊工 3/16、
17)

「脳の健康を守る」 九大講師らシンポ
福岡で二十一日
(朝日 3/17)

九大移転作業ビーク
六本松キャンパスから伊都へ
(読売 朝日 3/17)

主幹教授に任ず 先端走る優秀研究者
九大、給与・経費優遇
(朝日 3/17)

アジアの中核的学術研究拠点形成が進む
北九州学術研究都市
(日刊工 3/18)

小国の森林資源活用を
九州大学研究院共同事業で提言
(熊本日日 3/18)

ロボット新景 海中探査 泳ぐ円盤資源を探
せ 九州大学応用力学研究所
(日経 3/19)

若田光一さんと二十六日ライブ発信 県が参
加者五百人を募集 九州大学医学部百年講堂
(西日本 読売 毎日 3/19)

情報経済研究報告 メディア連携で需要創出
篠崎彰彦大学院経済学研究院教授
(日経 3/19)

さよならイベント あすと二十三日多彩に
移転の九大六本松キャンパス
(西日本 朝日 3/20、21)

カネミ油症 原因物質体外に排出
九大准教授ら確認 玄米発酵品に効果
(朝日 毎日 西日本 3/20、21)

自動車産業専門の大学院 九大が国内で初め
て開設 博士課程 企業の研究員も在籍
(毎日 3/20)

外国人の介護・看護研修 どう見る
経済協力か人手確保か
平野裕子大学院医学研究院准教授
(朝日 3/20)

コンピュターで植物の音を楽曲化
演奏会第二弾二十八日福岡市で
藤枝守大学院芸術工学研究院教授
(毎日 3/21)

赤ちゃんまるで母の腕の中
育兒負担を軽減 九大助教と長崎の家具販売
会社 電動ベビーベッド開発
(毎日 3/21)

九大・六本松キャンパス閉鎖 田島寮
最後の寮歌響く
(毎日 朝日 読売 3/22、30)

さようなら青春の六本松 九大キャンパス来
月移転 学生ら、八十八年の歴史に別れ
(日経 西日本 読売 毎日 山口 佐賀 長崎 大
分合同 富崎日日 3/22)

九州大学 後期日程合格発表
おめでとう 今、満開の春
(読売 3/22)

エネルギー新時代
クリーンエネルギーに未来を託し 電力の安
定供給 出光一哉大学院工学研究院教授
(読売 3/22)

平成二十一年度 来春の栄光をめざして
九州大学入試総括
(朝日 3/22)

地球上に新しい文明構築の時
工藤和彦九州大学特任教授
(読売 3/22)

デスク日記 三十年前 六本松
九州大学教養部
(西日本 3/23)

別府先進医療センター
最新機器でがん治療 患者の負担軽減目指す
(大分合同 3/23)

未来自ら切り開く 九大で卒業式
(毎日 読売 朝日 西日本 3/24、25)

記念誌刊行 卒業生祝う 九大移転
六本松談話記に花
(西日本 3/24)

夕潮 九州大六本松キャンパス
(読売 3/24)

九大・伊都構内グライダー墜落
操縦の院生軽傷
(朝日 毎日 読売 西日本 3/25、26)

広がる「弁当の日」 学生自ら調理
大変さと面白さ学 九州大
(長崎 3/25)

医師を志す君へ
九州大学大学院医学研究院教授 橋本誠さん
(朝日 3/25)

多くの研究と臨床ができる 「強い九大医学
部」をめざす 高柳涼一・医学部長に聞く
(読売 3/25)

前原市のコミュニティバス
九大線、来月から増便へ
(西日本 毎日 3/26、31)

若田さん、母校・九大と交信
「博多ラーメン食べたい」
(西日本 日経 読売 朝日 毎日 産経 日刊工
宮崎日日 熊本日日 佐賀 3/26)

何度でも使える吸着剤 九大などゲル開発
○「ナノ」開拓に「手」
(日経産業 化学工業日報 3/26、27)

九大移転 変わるまち
六本松と伊都 上・下
(西日本 3/27、28)

サイエンスとヒューマニティー
志高く持ち、医学の道めざす
九州大病院長 久保千春氏
(読売 3/27)

財務、三大「非常に優」 国立大評価
(朝日 3/27)

白血球の好中球 脂質が感染源へ誘導
九大が解明 アレルギー治療に
(日経産業 3/27)

大会開催にあたって 大会実行委員長
今泉 勝己 一般公演 全てポスター発表で
(科学 3/27)

南極と大 置き去り、謝りたい 観測に貢献
した戦友 北村泰一九州大名誉教授
(大分合同 山口 3/28、30)

保湿クリーム成分で選ぶ 水分を保てばかゆ
み防げる 古江増隆大学院医学研究院教授
(日経 3/28)

九州大財務評価 最高の「AAA」
(西日本 3/28)

学研都市推進課 糸島氏に新設へ
九大と連携し活性化
(西日本 3/28)

害虫タマバエ防除に貢献
湯川淳一九州大学名誉教授
(読売 3/29)

油症理解し連携を
医療機関にリーフレット
(日経 宮崎日日 3/28、29)

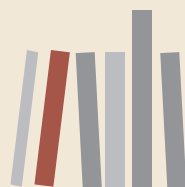
デスク日記 九大六本松キャンパス プール
(西日本 3/29)

「漢方」の研究と普及進む 九州大学総合診
療科 生薬を処方する専門医が対応
(西日本 3/29)

県外科医定例会 九州大病院別府先進医療
センター
(大分合同 3/30)

社説 九州大学の移転
「知」を生かす地域・産業興しを
(日刊工 3/30)

こんな本 出しました



井の中の蛙 大海を知る



著者から一言

これまで、人生のほとんどを大学での研究に費やし、象牙の塔で温々と生きてきた筆者が、意を決して飛び込んだ第二の人生、それは底辺の教育現場でした。そこで垣間見たものは、これまでの人生とは真逆で、学舎と言う名の修羅場、しかしそこに教育の原点を見いだしたのです。

それはいみじくも、筆者が半世紀前に過ごした小中高時代と重なり、人間の隠れた才能が忘れられている、との思いが募り、生徒達に「負けるな、頑張れ」とエールを贈りたくて、拙い人生を振り返った、恥の書き捨てが拙著です。



著者：藤原 昇（クラーク記念国際高等学校・特別顧問、元九州大学大学院農学研究院教授）
発行：日本文学館（2008年10月刊、税込：1,365円）

郷土福岡の史跡・説話・伝承をたずねて 福岡歴史がめ煮（博多区・中央区編）

著者から一言

本書は、筆者が定年退職の数年前から十数年かけ、忘れられた史跡や埋もれた説話、消えゆく傑人たちの軌跡を丹念に拾い集めた探訪記です。福岡の歴史を、郷土料理の枠、博多がめ煮の大鍋に煮込み、激しく変容した町の在りし日と行く末に思いを馳せ、先人が残した心を汲み取ろうと努めました。今、古い伝統の町を離れようとする九州大学生はもちろん、歴史ブームに関心を寄せる老若男女を問わず、郷土の来し方、行く末をじっくり見据えてほしいものです。執筆にあたっては、文献渉猟に力を入れ、写真は、百聞は一見に如かずと馴染みの風景を数多く挿入しました。どの項からでも読み始められる、単文仕立てです。目下、つぎの大鍋に取り組んでいます。



著者：空閑 龍二（平成11年3月九州大学医学部事務官定年職員）
発行：海鳥社（2008年3月刊、税込：1,890円）

ようこそ九州大学へ

チェコ共和国 オストラバ工科大学副学長

平成二十一年五月二十二日
(金)、ヤロミール・ゴットバルド副学長(開発担当)及びウラジミール・ケボ副学長(産学連携担当)が、水田理事を表敬訪問しました。

オストラバ工科大学と本工学研究院、システム情報科学研究院及び総合理工学研究院は、昨年、部局間交流協定を締結し活発な交流を行っています。このたび、工学府地球資源システム工学専攻とダブルディグリーの可能性について議論するため来学の折、水田理事を訪れ、今回の議論の内容等について懇談しました。



お詫びと訂正

前号(六十二号)の二十四ページ左上部に記載いたしておりました写真と説明文が、印刷会社の不手際で入れ変わりが生じました。つきましては下記写真説明が正式な原稿となります。お詫びして訂正いたします。



旧附属医学専門部校舎(病院地区) 昭和30年代。医学専門部は軍医養成を目的とした学校(当初は臨時附属医学専門部、昭和19年度より附属医学専門部)で、同校は第9期生を最後に昭和27年3月に廃校となった。



久留米工業専門学校 昭和16年。当初の校名は久留米高等工業学校といった。昭和19年、久留米工業専門学校と改称、昭和26年3月廃校となった。

編 集 後 記

母校に勤務するという幸せを二年間経験させていただき、五月より文部科学省での勤務となりました。今後も、九州大学のためいくらかでも汗をかきますので、気軽にご連絡いただけますようお願いいたします。

牀前看月光(しょうぜん げつこうをみる)
疑是伊都霜(うたごうらくは これいとものしもかと)
拳頭望山月(こうべをあげて さんげつをのぞみ)
低頭思九大(こうべをたれて きゅうだいをおもふ)
文部科学省研究振興局基礎基盤研究課課長補佐
(前九州大学総務課長) 大土井 智

四月の伊都キャンパス・センターゾーンのオープンは多くのメディアに取り上げられ、市民の皆さんの関心の高さを示しました。オープニング・セレモニー時には、まだ寂しかったセンターゾーンの樹木も今では青々とした若葉をつけ、学生たちのキャンパスライフに彩りを添えています。伊都キャンパスは、都市近郊という利便性を持ちながら、周辺には豊かな海も山もあります。週末は伊都キャンパス散策を兼ねて「糸島デイ・トリップ」というのもいかがでしょうか?

広報室 深堀 成吾

九大の最新情報は

「九大広報」の定期購読で。

九州大学同窓会連合会では、九州大学の姿をご理解いただくため、同窓生や在学生のご家族の皆様をはじめ、広く一般の方々にも「九大広報」の定期購読をお願いしています。定期購読は一年間六巻分(隔月発行)三千円でお受けいたしておりますので、ご希望の方は、同窓会連合会事務局までご連絡をお願いします。

九州大学同窓会連合会事務局

TEL.092-642-4328 FAX.092-642-2113

E-Mail sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

